

3. 福祉用具貸与計画書における項目の標準化に向けた検討

3-1. 実施概要

(1) 目的

昨年度に本会が実施した令和2年度調査で明らかとなった課題を踏まえ、福祉用具貸与サービスの質の向上に向けた記録項目や記載内容の基準の可視化・標準化に資する改編様式、及び介護支援専門員を含む多職種とのチームケアの促進に繋がる記録様式を作成することを目的に福祉用具貸与計画書およびモニタリングシートにおける項目の標準化に向けた検討を行った。

(2) 実施内容

本検討を実施するにあたり以下の調査を実施した。

1) アンケート調査の実施

介護支援専門員を含む多職種とのチームケアの促進に繋がる記録様式を作成するにあたり、介護支援専門員を対象に「福祉用具サービス計画」や福祉用具専門相談員が実施するモニタリングの結果等の活用状況、福祉用具専門相談員から得られる介護支援専門員にとって有益な情報等について実態の把握を行った。

2) 福祉用具貸与計画書等の見直し

令和2年度調査で明らかとなった課題及び、上記「2. 福祉用具貸与サービスの質の向上に向けた検討」で議論いただいたご意見等を踏まえ、ふくせん福祉用具サービス計画書およびモニタリングシートの様式の試行運用版を作成した。また、試行運用版を基に実際に現場の福祉用具専門相談員を対象に試行運用を行い、記録項目や記載方法等の改善点や実運用に向けた今後の課題についてヒアリング調査を行った。更に、介護支援専門員に対するヒアリング調査を行い、有益な情報が記載された改編となっているかを確認し、本事業におけるふくせん福祉用具サービス計画書およびモニタリングシートの改編様式作成の参考とした。

3-2. 介護支援専門員へのアンケート調査の実施

(1) 調査概要

1) 調査の目的

福祉用具貸与サービスの質の向上を目的に、福祉用具貸与事業所に対して、平成24年度に「福祉用具サービス計画」の作成が義務化され、その後、平成30年度には作成した「福祉用具サービス計画」を利用者だけでなく介護支援専門員へ交付することが義務化された。これにより、福祉用具貸与事業所から交付された「福祉用具サービス計画」や福祉用具専門相談員が実施するモニタリングの結果を介護支援専門員が活用することで、多職種連携によるチームケアの促進が期待されているところである。

本調査では、介護支援専門員による「福祉用具サービス計画」や福祉用具専門相談員が実施するモニタリングの結果等の活用状況、福祉用具専門相談員から得られる介護支援専門員にとって有益な情報等について実態を把握し、チームケアの促進に寄与すると考えられる情報や取組を整理することで、現状の「福祉用具サービス計画」や「モニタリングシート」の見直し等に繋げることを目的として実施した。

2) 調査対象

調査対象：全国の居宅介護支援事業所に所属する介護支援専門員 1,500名

居宅介護支援事業所に郵送し、事業所内で1名（福祉用具貸与サービスを居宅サービス計画書に位置付けている利用者を担当している介護支援専門員のうち、主任介護支援専門員の方、または経験年数の最も長い介護支援専門員の方）が回答

抽出方法：介護サービス情報公表システムに登録されている全国の居宅介護支援事業所から無作為抽出

3) 調査方法

郵送配布・郵送回収またはWEB回収

4) 調査期間

令和3年11月1日（月）～令和3年12月6日（月）

5) 回収状況

回収数：691件（回収率：46.0%）

有効回収数：688件（有効回収率：45.8%）

6) 調査項目

主な調査項目は以下のとおり。

図表 11 主な調査項目

問	調査項目	
問 1	事業所について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 開設主体 ・ 福祉用具貸与事業所の併設の有無
問 2	回答者について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護支援専門員としての業務経験年数 ・ 担当している利用者数 ・ 連携している福祉用具貸与事業所数
問 3	居宅サービス計画書完成前の福祉用具専門相談員との連携について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉用具専門相談員との連携方法 ・ 福祉用具専門相談員へ提供している情報 ・ 福祉用具専門相談員から提供される情報のうち、居宅サービス計画書作成の参考になっている情報 ・ 福祉用具専門相談員から提供される情報を参考に検討・作成している居宅サービス計画書標準様式の項目
問 4	居宅サービス計画書完成後の福祉用具専門相談員との連携について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 居宅サービス計画書に示した情報のうち、「福祉用具サービス計画」に反映されている項目 ・ 「福祉用具サービス計画」に記載されている「福祉用具利用目標」の記載内容 ・ 福祉用具サービス計画の活用場面 ・ 「福祉用具サービス計画」の記載内容に対する評価 ・ 現状の「ふくせん福祉用具サービス計画書（基本情報）」の項目に対する評価 ・ 現状の「ふくせん福祉用具サービス計画書（選定提案）」の項目に対する評価
問 5	福祉用具専門相談員が実施しているモニタリング結果の活用について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉用具専門相談員が実施するモニタリング結果の共有状況 ・ 福祉用具専門相談員が実施したモニタリング結果の活用場面 ・ 福祉用具専門相談員が実施したモニタリング結果において、参考としている情報 ・ 福祉用具専門相談員が実施したモニタリング結果を得ることによる効果 ・ 福祉用具専門相談員が実施するモニタリング結果において、不足している情報や視点 ・ 現状の「ふくせんモニタリングシート」の項目と評価指標に対する評価 ・ 「ふくせんモニタリングシート」に加えると良い項目 ・ 福祉用具専門相談員が実施するモニタリングへの要望等
問 6	福祉用具専門相談員を利用者に紹介する際に重視するポイントについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 営業体制 ・ 業務遂行能力 ・ 専門知識 ・ その他

(2) 調査結果

※本文中に下線を記載している個所は、改編様式に反映した内容である。

1) 事業所について

① 開設主体

本調査に回答した介護支援専門員が所属している居宅介護支援事業所の開設主体については、「営利法人」が44.6%と最も多かった。

図表 12 開設主体

調査数	都道府県、市区町村、広域 連合・一部事務組合	社会福祉協議会	社会福祉法人（社協以外）	医療法人	社団・財団法人	協同組合及び連合会	営利法人（株式会社・合名・合資・合同・有限会社）	○特定非営利活動法人（NPO）	その他の法人	その他	無回答
688	9	45	153	112	18	11	307	14	13	3	3
100.0	1.3	6.5	22.2	16.3	2.6	1.6	44.6	2.0	1.9	0.4	0.4

② 福祉用具貸与事業所の併設の有無

福祉用具貸与事業所の併設の有無については、「同一法人・系列法人が運営する福祉用具貸与事業所はない（居宅介護支援事業所以外は行っていない）」が最も多く、86.2%であった。

図表 13 福祉用具貸与事業所の併設の有無

調査数	あたは同一敷地内に福祉用具貸与事業所があるが、併設ではない	貸与事業所を系列法人が運営する福祉用具貸与事業所があるが、併設ではない	同一法人・系列法人が運営する福祉用具貸与事業所があるが、併設ではない	以外は行っていない（居宅介護支援事業所）	無回答
688	20	61	593	14	
100.0	2.9	8.9	86.2	2.0	

2) 回答者について

① 介護支援専門員としての業務経験年数

本調査に回答した介護支援専門員の業務経験年数（これまでの通算の経験年数）は、「10～15年未満」が最も多く31.4%、次いで「5年～10年未満」が26.9%、「15年～20年未満」が21.7%であった。

図表 14 介護支援専門員としての業務経験年数

調査数	3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～15年未満	15年～20年未満	20年以上	無回答	平均
688	23	39	185	216	149	42	34	11.24
100.0	3.3	5.7	26.9	31.4	21.7	6.1	4.9	

② 担当している利用者数

介護支援専門員として担当している利用者数と、そのうち福祉用具貸与サービスを居宅サービス計画書に位置付けている利用者数（令和3年9月分）について、居宅介護支援と介護予防支援それぞれの回答を得た。

居宅介護支援については、担当している利用者数は「30～40人未満」（46.1%）が最も多く、平均は32人であり、そのうち、福祉用具貸与サービスを居宅サービス計画書に位置付けている利用者数は「10～20人未満」（42.6%）が最も多く、平均は20人であった。

介護予防支援については、担当している利用者数は「1～10人未満」（54.1%）が最も多く、平均は6人であり、そのうち、福祉用具貸与サービスを居宅サービス計画書に位置付けている利用者数は「1～10人未満」（65.4%）が最も多く、平均は3人であった。

上記の結果より、居宅介護支援と介護予防支援それぞれについて、福祉用具貸与サービスを居宅サービス計画書に位置付けている利用者の割合を算出したところ、居宅介護支援については、「6割～7割未満」が25.1%で最も多く、平均は約6割、介護予防支援については、「5割～6割未満」が15.4%で最も多く、平均は約5割であった。

図表 15 担当している利用者数（居宅介護支援）

	調査数	0人	1 ～ 10人未満	10 ～ 20人未満	20 ～ 30人未満	30 ～ 40人未満	40人以上	無回答	平均
現在担当している利用者数	688	-	13	64	216	317	69	9	32.58
	100.0	-	1.9	9.3	31.4	46.1	10.0	1.3	
そのうち、福祉用具貸与サービスを居宅サービス計画書に位置付けている利用者数	688	14	60	293	237	45	30	9	20.55
	100.0	2.0	8.7	42.6	34.4	6.5	4.4	1.3	

図表 16 担当している利用者数（介護予防支援）

	調査数	0人	1 ～ 10人未満	10 ～ 20人未満	20 ～ 30人未満	30 ～ 40人未満	40人以上	無回答	平均
現在担当している利用者数	688	120	372	139	21	6	7	23	6.92
	100.0	17.4	54.1	20.2	3.1	0.9	1.0	3.3	
そのうち、福祉用具貸与サービスを居宅サービス計画書に位置付けている利用者数	688	164	450	36	7	-	1	30	3.34
	100.0	23.8	65.4	5.2	1.0	-	0.1	4.4	

図表 17 福祉用具貸与サービスを居宅サービス計画書に位置付けている利用者数の割合

	調査数	0割	0 ～ 1割未満	1 割 ～ 2割未満	2 割 ～ 3割未満	3 割 ～ 4割未満	4 割 ～ 5割未満	5 割 ～ 6割未満
居宅介護支援	688	14	-	1	5	24	56	153
	100.0	2.0	-	0.1	0.7	3.5	8.1	22.2
介護予防支援	688	50	-	29	58	61	49	106
	100.0	7.3	-	4.2	8.4	8.9	7.1	15.4

	調査数	6 割 ～ 7割未満	7 割 ～ 8割未満	8 割 ～ 9割未満	9 割 ～ 10割未満	10割	無回答	平均（割）
居宅介護支援	688	173	152	75	22	4	9	6.35
	100.0	25.1	22.1	10.9	3.2	0.6	1.3	
介護予防支援	688	79	30	27	1	54	144	4.87
	100.0	11.5	4.4	3.9	0.1	7.8	20.9	

③ 連携している福祉用具貸与事業所数

福祉用具貸与事業所との連携状況の把握のため、日常的に関わりのある福祉用具貸与事業所数と、福祉用専門相談員の数について、それぞれ回答を得た。

日常的に関わりのある福祉用具貸与事業所数については、「5～10事業所未満」(51.5%)が最も多く、平均は約7事業所であった。

日常的に関わりのある福祉用具専門相談員の数については、「5～10人未満」(48.5%)が最も多く、平均は6人であった。

図表 18 日常的に関わりのある福祉用具貸与事業所数

調査数	0事業所	1 ～ 5 事業所未満	5 ～ 10 事業所未満	10 ～ 15 事業所未満	15 ～ 20 事業所未満	20 ～ 25 事業所未満	25 ～ 30 事業所未満	30事業所以上	無回答	平均
688	-	169	354	132	16	7	1	-	9	7.02
100.0	-	24.6	51.5	19.2	2.3	1.0	0.1	-	1.3	

図表 19 日常的に関わりのある福祉用具専門相談員の数

調査数	0人	1 ～ 5 人未満	5 ～ 10 人未満	10 ～ 15 人未満	15 ～ 20 人未満	20 ～ 25 人未満	25 ～ 30 人未満	30人以上	無回答	平均
688	3	194	334	125	11	7	-	5	9	6.87
100.0	0.4	28.2	48.5	18.2	1.6	1.0	-	0.7	1.3	

3) 居宅サービス計画書完成前の福祉用具専門相談員との連携について

① 福祉用具専門相談員との連携方法

福祉用具専門相談員との連携方法は、「サービス担当者会議への出席を依頼し、情報提供や意見を求める」が 97.4%と最も多く、次いで「退院・退所前カンファレンスへの出席を依頼し、情報提供や意見を求める」が 79.9%、「アセスメントの際に利用者宅への同行訪問を依頼する」が 78.6%であった。

図表 20 福祉用具専門相談員との連携方法（複数回答）

調査数	利用者宅への同行訪問の際に依頼	福祉用具専門相談員に単独訪問を依頼する	利用者基本情報（サービス情報等）を求め提供する	利用者基本情報（サービス情報等）を求め提供する	居宅サービス計画書に記載の情報を提供する	退院・退所前カンファレンスへの出席を依頼し、情報提供や意見を求める	サービス担当者会議への出席を依頼し、情報提供や意見を求める	その他	特になし	無回答
688	541	305	430	433	550	670	25	-	2	
100.0	78.6	44.3	62.5	62.9	79.9	97.4	3.6	-	0.3	

【その他：主な自由記述】

- ・ 退院前家屋調査に同行してもらい、意見を求める。
- ・ 納品時に同行する
- ・ 退院日にはベッドや玄関の手すりが必要な場合、一緒に同行し、家族と面談、退院直前に搬入をして頂く
- ・ デモ品の相談
- ・ 住宅改修の際、工務店や関係機関との連携を依頼する。行政への書類提出依頼
- ・ 照会
- ・ 福祉用具担当者のモニタリング結果などを報告してもらっている
- ・ 保険対象外の福祉用具の相談など
- ・ 退院前のデモ機貸与
- ・ 退院前家屋評価時に同行依頼

② 福祉用具専門相談員へ提供している情報

a) 利用者基本情報（フェイスシート等）で提供している情報

福祉用具専門相談員へ提供している情報のうち、利用者基本情報（フェイスシート等）で提供している情報は、「利用者の個人情報（氏名・住所・生年月日・年齢）」が99.0%と最も多く、次いで「既往歴」（94.9%）、「身体状況・ADL」（93.3%）、「家族状況（主介護者・緊急連絡先）」（91.9%）の順であった。

図表 21 利用者基本情報（フェイスシート等）で提供している情報（複数回答）

調査数	年齢・住所・生年月日・氏名 利用者の個人情報	既往歴	主治医	服薬情報	生活歴	支援経過	シヨマリー・リハビリテーション 医療情報（主治医・看護）	障害自立度	認知症自立度
688	681	653	558	342	533	220	448	427	443
100.0	99.0	94.9	81.1	49.7	77.5	32.0	65.1	62.1	64.4

調査数	身体状況・ADL	家族状況（主介護者・緊急連絡先）	住環境	利用者・家族の希望	認定情報（要介護認定期間、認定状態区分の意見等）	その他	特になし	無回答
688	642	632	599	604	587	22	-	4
100.0	93.3	91.9	87.1	87.8	85.3	3.2	-	0.6

【その他：主な自由記述】

- ・ 通所や訪問でリハビリ職がかかわっている時は、その意見
- ・ 収入、障害者手帳有無、インフォーマルサービス
- ・ 負担割合、金銭状況
- ・ 自宅の写真（配置予定場所とか）
- ・ 本人、家族の意向
- ・ 負担割合、障害者手帳情報
- ・ サービスの利用状況、サービス利用に至った経過を簡単に記入
- ・ 訪問時注意する事
- ・ 認知症状、睡眠状況、IADL、身体拘束や虐待の有無、家事活動等、視力・聴力、コミュニケーション能力
- ・ 医療専門職の意見や指示

b) 居宅サービス計画書で提供している情報

福祉用具専門相談員へ提供している情報のうち、居宅サービス計画書で提供している情報は、「総合的な援助の方針」、「生活全般の解決すべき課題（ニーズ）」、「目標（長期目標・短期目標）」、「援助内容（サービス内容・サービス種別・頻度・期間）」のいずれも、97%以上の介護支援専門員が提供していることが分かった。

図表 22 居宅サービス計画書で提供している情報（複数回答）

調査数	総合的な援助の方針	生活全般の解決すべき課題（ニーズ）	目標（長期目標・短期目標）	援助内容（サービス種別・頻度・期間）	その他	特にない	無回答
688	669	676	676	675	42	-	3
100.0	97.2	98.3	98.3	98.1	6.1	-	0.4

【その他：主な自由記述】

- ・ 週間予定、本人の生活の流れ
- ・ 週間サービス計画、提供票
- ・ 緊急連絡先、主治医、週間サービス予定表
- ・ 本人家族意向、主訴、課題分析結果、方針
- ・ インフォーマルサービスの利用・生活リズム
- ・ 4表、会議内容
- ・ 生活に対する本人・家族の意向
- ・ 日常生活時間活動
- ・ 居宅サービス計画書すべて

③ 福祉用専門相談員から提供される情報のうち、居宅サービス計画書作成の参考にしている情報

福祉用具専門相談員から提供される情報のうち、居宅サービス計画書作成の参考にしている情報は、「福祉用具の複数提案における提案品目・機種（型式）・提案理由」が83.4%で最も多く、次いで「住環境整備提案情報」が78.1%であった。

図表 23 福祉用専門相談員から提供される情報のうち、居宅サービス計画書作成の参考にしている情報（複数回答）

調査数	いこ利用 るとや者 こと福・家 と社族 用具が に困 期つ 待し てい る	住 環 境 整 備 提 案 情 報	式 〜 ・ 提 案 理 由	福 祉 用 具 の 複 数 提 案 に お け	福 祉 用 具 の 貸 与 価 格 情 報	具 選 定 の 経 緯	留 意 事 項	福 祉 用 具 利 用 に あ た っ て の	そ の 他	特 に な い	無 回 答
688	494	537	574	458	451	491	8	6	3		
100.0	71.8	78.1	83.4	66.6	65.6	71.4	1.2	0.9	0.4		

【その他：主な自由記述】

- ・ 貸与計画書
- ・ 更新時の時などは利用継続の必要性について確認
- ・ 法に伴った貸与の情報
- ・ 福祉用具の販売価格、本人・家族の能力
- ・ 3点は提案してもらおう
- ・ 相談員のモニタリング
- ・ 確認し判断した専門的な知見

④ 福祉用具専門相談員から提供される情報を参考に検討・作成している居宅サービス
計画書標準様式の項目

福祉用具専門相談員から提供される情報を参考に検討・作成している居宅サービス
計画書標準様式の項目は、「援助内容（サービス内容・サービス種別・頻度・期間）
（第2表）」が最も多く、83.3%であった。

図表 24 福祉用具専門相談員から提供される情報を参考に検討・作成している居宅サ
ービス計画書標準様式の項目（複数回答）

調査数	対利用者及び家族の意向を踏まえた課題分析の結果（第1表）	総合的な支援方針（第1表）	生活全般の解決すべき課題（第2表）	目標（長期目標・短期目標）（第2表）	援助内容（サービス種別・頻度）（第2表）	3週間サービス計画表（第3表）	居宅介護支援経過記録（第5表）	その他	特になし	無回答
688	406	447	531	520	573	349	368	9	23	3
100.0	59.0	65.0	77.2	75.6	83.3	50.7	53.5	1.3	3.3	0.4

【その他：主な自由記述】

- ・ サービス担当者会議の要点（第4表）
- ・ サービス利用票・提供票
- ・ サービス担当者会議議事録、評価表
- ・ QOL
- ・ 福祉用具のモニタリング表
- ・ 点数

4) 居宅サービス計画書完成後の福祉用具専門相談員との連携について

① 居宅サービス計画書に示した情報のうち、「福祉用具サービス計画」に反映されている項目

居宅サービス計画書に示した情報のうち、「福祉用具サービス計画」に反映されている項目は、「利用者の身体状況・ADL」が77.8%で最も多く、次いで「生活全般の解決すべき課題・ニーズ」(75.0%)、「目標(長期目標・短期目標)」(74.9%)の順であった。

図表 25 居宅サービス計画書に示した情報のうち、「福祉用具サービス計画」に反映されている項目(複数回答)

調査数	利用者の身体状況・ADL	利用者の介護環境	利用者の住環境	利用者の意向(を踏まえた課題分析の結果)	総合的な援助方針	生活全般の解決すべき課題・ニーズ	目標(長期目標・短期目標)	その他	無回答
688	535	417	483	437	395	516	515	11	6
100.0	77.8	60.6	70.2	63.5	57.4	75.0	74.9	1.6	0.9

【その他：主な自由記述】

- ・ 留意事項
- ・ 選定理由
- ・ 品目、価格、選定理由
- ・ 一般的な事(誰にも共通することしか書けてない)。選択肢の項目が書けてるのは1事業所のみ
- ・ ケアプランに基づいた計画書なので同様の内容

② 「福祉用具サービス計画」に記載されている「福祉用具利用目標」の記載内容

「福祉用具サービス計画」に記載されている「福祉用具利用目標」の記載内容については、「居宅サービス計画書の目標に紐づいた福祉用具利用目標が記載されている」が95.5%であった。

また、「居宅サービス計画書の目標に紐づいた福祉用具利用目標が記載されている」と回答した場合の具体的な記載状況については、「選定された福祉用具と福祉用具利用目標が紐づけられている」が98.3%であり、「目標の達成度合が把握できるような利用状況・利用頻度等が5W1Hで記載されている」は26.9%、「目標の達成度合が把握できるような数値目標が記載されている」は17.5%にとどまった。

図表 26 「福祉用具サービス計画」に記載されている「福祉用具利用目標」の記載内容 (複数回答)

調査数	紐づいた福祉用具利用目標が記載されている	紐づいた福祉用具利用目標が記載されていない	無回答
688	657	17	14
100.0	95.5	2.5	2.0

図表 27 具体的な記載状況 (複数回答)

調査数	選定された福祉用具と福祉用具利用目標が紐づけられている	目標の達成度合が把握できるような利用状況・利用頻度等が5W1Hで記載されている	目標の達成度合が把握できるような数値目標が記載されている	その他	無回答
657	646	177	115	7	4
100.0	98.3	26.9	17.5	1.1	0.6

【その他：主な自由記述】

- ・ 生活全般の解決すべき課題・ニーズと福祉用具利用目標が紐づけられている
- ・ 目標とする生活動作など(数値化されていない)

③ 福祉用具サービス計画の活用場面

福祉用具サービス計画の活用場面は、「介護支援専門員として実施するモニタリング評価時に活用している」が最も多く、78.1%であった。

また、「活用していない」と回答した場合、その理由は「その他」を除くと「記載されている情報がわかりづらい・活用しづらい」が25.0%で最も多かった。

図表 28 福祉用具サービス計画の活用場面（複数回答）

調査数	介護支援専門員として実施するモニタリング評価時に活用している	判断する際に活用している	居宅サービス計画書見直しの要否を	居宅介護支援経過記録に活用している	サービス担当者会議での検討事項に活用している	情報共有にも活用している	リハビリテーションの検討において、PT、STと	ケアにも活用している	認知症やターミナルケアの利用者の共有	その他	活用していない	無回答
688	537	463	276	443	371	200	3	28	1			
100.0	78.1	67.3	40.1	64.4	53.9	29.1	0.4	4.1	0.1			

【その他：主な自由記述】

選定理由／福祉用具の購入や住宅改修／軽度者レンタルの申請

図表 29 活用していない理由（複数回答）

調査数	活用したい情報が共有	情報がわかりづらい・情報	記載されたい情報	活用する必要がない	その他	特にな
28	5	7	4	10	5	
100.0	17.9	25.0	14.3	35.7	17.9	

【その他：主な自由記述】

- ・ 簡単に作りすぎていて内容、中身がなく、活用しづらい
- ・ 必要な時手元にない。既に電話等で話している
- ・ ケアプランに基づいた計画書で後付計画書になっているため、計画書から提案はないが、日常的な協議の中でいろいろな提案をうけている
- ・ すでに担当者会議で内容は話しあっており計画内容は同じこと。モニタリングで直接やりとりしてコミュニケーション、情報共有できており必要性がない
- ・ ケアプランをそのまま写してあるため参考にならない

④ 「福祉用具サービス計画」の記載内容に対する評価

「福祉用具サービス計画」の記載内容に対する評価は、「利用目標（福祉用具利用目標）」、「福祉用具の機種と当該機種を選択した理由（選定理由）」及び「関係者間で共有すべき情報（使用時の注意事項）（留意事項）」の全てについて、「現状の記載方法で十分理解・活用できる」が70%以上であった。

また、それぞれについて「現状の記載方法ではわかりづらい・活用しづらい」と回答した場合、「わかりやすい・活用しやすい記載方法」について回答いただいた結果をa)、b) 及びc) に示す。

図表 30 「福祉用具サービス計画」の記載内容に対する評価

	調査数	現状の記載方法で十分理解・活用できる	現状の記載方法ではわかりづらい・活用しづらい	無回答
利用目標(福祉用具利用目標)	688	545	142	1
	100.0	79.2	20.6	0.1
福祉用具の機種と当該機種を選択した理由(選定理由)	688	544	139	5
	100.0	79.1	20.2	0.7
関係者間で共有すべき情報(使用時の注意事項)(留意事項)	688	509	166	13
	100.0	74.0	24.1	1.9

a) わかりやすい・活用しやすい記載方法_利用目標

「利用目標（福祉用具利用目標）」については、「「自立支援」「介護者負担軽減」等、目標の位置づけが把握できるとよい」が最も多く 46.5%）、次いで「利用する福祉用具と福祉用具利用目標の紐づけがわかりやすいとよい」（44.4%）、「数値目標等、目標の達成状況が評価しやすい記述があるとよい」（41.5%）、「福祉用具的な使用場面・用途・利用頻度の記載があるとよい」（40.1%）の順であった。

図表 31 わかりやすい・活用しやすい記載方法_利用目標
(福祉用具利用目標) (複数回答)

調査数	「自立支援」「介護者負担軽減」等、目標の位置づけが把握できるとよい	数値目標や等しい、目標の達成状況が評価しやすい	利用する福祉用具と福祉用具の紐づけがわかりやすい	福祉用具的な使用場面・用途・利用頻度の記載があるとよい	福祉用具別の具体的な利用安全に関する記載があるとよい	その他	無回答
142	66	59	63	57	46	8	1
100.0	46.5	41.5	44.4	40.1	32.4	5.6	0.7

【その他：主な自由記述】

- ・ 用具があることが前提となっている
- ・ 評価しにくい
- ・ 特に計画書を活用していない
- ・ 利用目的が曖昧な表現の専門員がいる
- ・ 帳票が見難い

b) わかりやすい・活用しやすい記載方法_福祉用具の機種と当該機種を選択した理由
(選定理由)

「福祉用具の機種と当該機種を選択した理由 (選定理由)」については、「機種別の
特徴や違いが簡易に把握できるとよい」が最も多く 70.5%であった。

図表 32 わかりやすい・活用しやすい記載方法_
福祉用具の機種と当該機種を選択した理由 (選定理由) (複数回答)

調査数	機種別の 特徴や 違いが 簡易に 把握 できる とよい	等よ選 ーい定 (理由 カテを ゴリに ーを把 を握 記でき ると	と用利 よ目用 い標す るの福 紐祉 づけ用 け具 がわと かり福 り祉 やす用具 い利	その他	無回答
139	98	82	62	8	1
100.0	70.5	59.0	44.6	5.8	0.7

【その他：主な自由記述】

- ・ より具体的で中身のある選定理由を記載してほしい
- ・ 計画の前に事前カンファで協議しているのの後づけになる
- ・ 同等の新機種が出たら教えて欲しい
- ・ 話しあった内容を、記入しているだけ
- ・ 記入者の表現力の問題
- ・ 利用目的が曖昧な表現の専門員がいる
- ・ 個別性のある意見記載欄があればよい

c) わかりやすい・活用しやすい記載方法_関係者間で共有すべき情報（使用時の注意事項）（留意事項）

「関係者間で共有すべき情報（使用時の注意事項）（留意事項）」については、「誤操作や事故の危険性についての注意事項」が最も多く 61.4%であった。

図表 33 わかりやすい・活用しやすい記載方法_関係者間で共有すべき情報（使用時の注意事項）（留意事項）（複数回答）

調査数	利用者や家族に対する福祉用具	利用者別の服薬状況や疾患、生活習慣	誤操作や事故の危険性について	回数など連絡事項によるメ	福祉用具専門相談員等	その他	無回答
166	89	69	102	95	4	3	
100.0	53.6	41.6	61.4	57.2	2.4	1.8	

【その他：主な自由記述】

- ・ 目標に対する福祉用具のモニタリングの内容
- ・ 個人に対応した記載をして欲しい。
- ・ 共通の書式があると忙しい中でも確認しやすいと思う
- ・ 内容がうすが仕方ないとおもう

d) 利用者の基本情報として福祉用具専門相談員に把握しておいてもらいたい事項・要望

上記 a)、b) 及び c) 以外に利用者の基本情報として福祉用具専門相談員に把握しておいてもらいたい事項・要望について回答いただいた結果は、図表 34 のとおり。

図表 34 上記以外に利用者の基本情報として福祉用具専門相談員に把握しておいてもらいたい事項・要望（自由記述）

分類	回答
身体状況・ADL	<ul style="list-style-type: none"> ・ 疾患・既往歴・ADL ・ ADL くらいは把握して欲しい ・ ADL に合った福祉用具の紹介。 ・ ADL、疾病、環境 ・ ADL の状況 近況についての聞き取り ・ 利用者の既往歴や ADL など把握してもらい、生活状況に応じて提案などしてもらえるといいと思う。 ・ 今後の体調の変化、方向性 ・ 心身状態に応じた福祉用具の選定ができるように本人の状況を把握しておいてほしい。環境や動き等 ・ 利用者の残存能力 ・ 疾患や術式から制限のある関節可動域 ・ 病状、服薬状況等医療的な把握 ・ 認知症の有無や程度。 ・ 利用者の身体機能、特徴。生活歴も把握していただくと参考になるかと思えます。 ・ 本人の状態変化などに迅速に対応してくださる相談員さんはやりやすい。また、相談しやすい。 ・ 疾患の理解が浅いことがあり、提案されたもので対応が大丈夫か心配なことがある（経験浅い方） ・ 排泄状況なども福祉用具のモニタリング時に聞き取りして、トイレ、オムツ関連のサンプルや利用方法など本人、家族に提案し、状況報告をしてもらいたい。 ・ 家屋の状況 利用者の身体状況等 ・ 既往歴、現病歴、身体 ADL 状況、日常生活動作の確認、福祉用具の必要性 ・ 認知面の低下がどの程度あり、福祉用具が正しく利用されているかを把握しておいてほしい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の ADL 状況や、家族の介護力状況を知っておいてもらいたい。 ・ 身体状況、家族の介護状況、病状について変化する情報を把握してもらいたい。関係者間で共有すべき情報（使用時の注意事項）（留意事項）の部分には、誤操作や事故の危険性についての注意事項の記載しかどこの事業所も記載されていない。
介護環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族関係や本人に係る環境背景等の水面下にある問題（介護支援専門員が把握した段階で支援者間の共有を行っているが、共有の継続）。 ・ 家族状況（関係性、課題など）、金銭面のこと、本人やご家族の生活歴や性格に合わせた対応 ・ 介護者の介護力 ・ ご家族で誤操作をおこしやすい方（精神疾患を持っている方等）の情報 ・ 同居家族の導線や生活環境の把握
利用者・家族の意向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者の性格等 ・ 利用者家族の個性が使用や選定に影響する時は個別的な対応をしてほしい。 ・ 利用者の個別事情は把握してもらえると関わって頂ける上でありがたい。 ・ 目標については、関係者（利用者、家族）、関係機関で共有し記載した方が良い。 ・ 利用者が、福祉用具を使用する事で、どの様な日常を送る事を望んでいるのか ・ 本人、家族の福祉用具に対する考えや思いを感じとれたら情報提供してほしい ・ 体の状態に合わせて選定をしているのは、良い。デザインや色で、選ぶ人もいるので、好みをみんなで把握すると拒否の人には、良いと思う。
福祉用具の利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉用具の使用状況。 ・ 活用状況 ・ 実際の使用時の様子や使用頻度を把握してもらいたい。 ・ 福祉用具使用者がどれくらいの頻度で使用しているか、どんな場面で使っているか把握しておいてもらいたい。 ・ 福祉用具に関する点検や相談の頻度を独居や老人世帯には細目に確認していただけると助かります。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用開始から現在に至るまでの期間とメンテナンスや交換数 レンタル品の使用状況（清潔な状況で利用できているか等） ・ 現在の福祉用具の調整した箇所や詳細な位置や分かる範囲でのレベル（ベッドの高さ等）
経済状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支払い方法 ・ 区分支給限度額内で収まるように、他のサービスの利用状況を把握してほしい。 ・ 経済面について配慮した用具の紹介をお願いしたい。他のサービスの利用の必要性を理解し連携して欲しい。 ・ 利用者、キーパーソンなどの利用料支払い能力 ・ 経済状況 ・ 金銭的な負担の可否
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 用紙はそのままが良いと思うが、内容の書き方を習得した方が良い ・ 担当者会議等で情報共有していけば良いかと思われま ・ いつもくわしく記載され、また口頭の報告もあり助かってます。 ・ 業者により扱っている物に違いあり、事業所の選定に配慮しているが、二つの事業所を、利用しなければならないことがある。その際、利用者への、不利益が生じないようにしたい。 ・ 利用者はカタログを見ても理解が出来ないことが多い。実際に体験にて違いを実感して欲しい。 ・ 本人へ使い方、料金、必要の意味などの説明が理解できるのか否か？ ・ メリットデメリットをしっかりと伝えて欲しい。 ・ 今後の予測に対応できる機種を紹介やそのタイミング

⑤ 現状の「ふくせん福祉用具サービス計画書（基本情報）」の項目に対する評価

現状の「ふくせん福祉用具サービス計画書（基本情報）」の項目に対する評価は、「身体状況・ADL」、「介護環境」、「意欲・意向等」、「住環境」全てにおいて、「現状の項目で十分理解・活用できる」が最も多かった。

また、上記以外に利用者の基本情報として福祉用具専門相談員に把握しておいてもらいたい事項・要望について回答いただいた結果は、図表 36 のとおり。

図表 35 現状の「ふくせん福祉用具サービス計画書（基本情報）」の項目に対する評価

	調査数	現状の項目で十分理解・活用できる	現状の項目では不足している	自身のため把握して不要である情報	無回答
身体状況・ADL	688	578	25	67	18
	100.0	84.0	3.6	9.7	2.6
介護環境	688	555	43	71	19
	100.0	80.7	6.3	10.3	2.8
意欲・意向等	688	588	35	46	19
	100.0	85.5	5.1	6.7	2.8
住環境	688	546	78	45	19
	100.0	79.4	11.3	6.5	2.8

図表 36 上記以外に利用者の基本情報として福祉用具専門相談員に
把握しておいてもらいたい事項・要望（自由記述）

分類	回答
身体状況・ADL	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身体状況・ADL ・ 疾患・既往歴・ADL ・ 身体状況 ADL、今困っていること、どのような生活を望んでいるのか ・ <u>身体状況の変化について</u> ・ 利用者の身体機能、特徴。生活歴も把握していただくと参考になるかと思えます。 ・ 実際には、身体状況・ADL 以下空欄の場合が多い。最低でも、移動・移乗能力や他にどのようなサービスを利用しているのか程度は把握してほしい。 ・ 訪問時等で大丈夫ではあるものの、その時の様子と前回やその後の様子の相違について等は気に留めてもらえれば…できれば、と思う。あまり気にしない方は気にしないため。
利用者・家族の意向	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>特に利用者家族への意向の確認が多く、利用者本人の意欲や意向・困っていることの把握がない。</u> ・ <u>本人と家族の思いをしっかりと聞き取りをしてほしい</u> ・ 本人、家族の心情。利用者の心身状態や経済面を把握して、利用者にあった最善の物を選択し、負担が多くならないようにしてほしい 必ず介護支援専門員に相談の上納入してほしい。 ・ 好み等 例えば歩行器は全体にイヤだと言っていた利用者でも、実際見ると、「年よりくさくない」「柄が良い」等意見が出る為利用者の好み欄等あったらよいかとも思う。
介護環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族関係 ・ 介護者の介護意思、介護知識や経験、介護費用負担能力
住環境	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>家の見取図や環境面</u> ・ <u>住環境で福祉用具が必要な箇所の間取り</u> ・ 利用者の住環境に合わせた用具の選定、細かい注意事項等について確認してほしい ・ 生活歴・住環境・現状の状態
福祉用具の利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活状況に過不足がないか ・ 定期的に用具がどのように利用されているか。歩行器を借りていた場合、以前は自宅周辺歩行で使用していたが現在は買い物や通院デイなどで使用されるなど変化していることがあるため、それを確認してほしい

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用にあたり、利用しづらい点等がないかのチェック
他職種との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理学療法士が訪問時等、デイケア利用時に訪問して理学療法士に利用状況の確認を行って欲しい。 ・ リハビリの専門職との連携
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ ケアマネジメントの流れや介護支援専門員に言われたのではなく、利用する理由付けをしっかりと踏まえて理解してほしい。 ・ 意欲・意向について、介護支援専門員の居宅サービス計画書より転記するものなのか、福祉用具相談員が独自に福祉用具利用について確認するものなのか分からない。 ・ 本人・家族から連絡があったらすぐに介護支援専門員にまずは連絡がほしい。 ・ 介護支援専門員が聞く内容と重なっている。結局は介護支援専門員の情報転記になっている。 ・ 身体状況・ADL のチェック式の記述はほとんど意味がない。(調査票と重複) 特記事項の方が重要。記入欄が、他の項目含め小さすぎる。 ・ 利き手や利き足など

⑥ 現状の「ふくせん福祉用具サービス計画書（選定提案）」の項目に対する評価

現状の「ふくせん福祉用具サービス計画書（選定提案）」の項目に対する評価は、「福祉用具が必要な理由」、「提案する理由」とともに、「現状の項目で十分理解・活用できる」が最も多く、90%以上であった。

また、上記以外に利用者に複数提案を行う際の福祉用具専門相談員への要望等について回答いただいた結果は、図表 38 のとおり。

図表 37 現状の「ふくせん福祉用具サービス計画書（選定提案）」の項目に対する評価

	調査数	き現状の項目で十分理解・活用で	現状の項目では不足している	ためを受領した理由（選定提案）がでない	無回答
福祉用具が必要な理由	688	640	15	18	15
	100.0	93.0	2.2	2.6	2.2
提案する理由	688	631	18	21	18
	100.0	91.7	2.6	3.1	2.6

図表 38 上記以外に利用者に複数提案を行う際の福祉用具専門相談員への要望等（自由記述）

分類	回答
提案内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身体状況にあった積極的な用具の提案 ・ 利用者のニーズをしっかりと引き出して福祉用具を提案して欲しい ・ 現状と今後の目標とを検討したうえでの提案をしてほしい。 ・ 多様な状況や要望を想定して提案してほしい ・ 専門的知識をもってアドバイスをいただきたい。特に機種の特徴など、実際に役立っています。 ・ 福祉用具を利用して何が出来るようになるかをポイントで複数提案できるようにしてもらいたい。安全のみではなく。 ・ メリット、デメリットをしっかりと説明してほしい ・ 用具の違いやメリットデメリットなど違いのわかりやすい説明で選定しやすいようにお願いしたい。 ・ 説明義務、リスクの説明や使用用途について、機種や種目により相違がある部分を懇切丁寧に行っている福祉用具専門相談員さんが増えてきている気がします。ありがたい事です。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機種の利便性を詳しく説明してほしい
介護支援専門員との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護支援専門員と一緒に動いてほしい。 ・ 自宅訪問（福祉用具のモニタリング）時は連絡してほしい ・ 私の感覚が間違っているのかも知りませんが、例えば介護支援専門員と福祉用具相談員が同行訪問し一緒に相談し合意してからサービスを開始するのではないのでしょうか。
様式の情報量	<ul style="list-style-type: none"> ・ あまり沢山の情報をいただいても、介護支援専門員や毎日かかわっている、ヘルパーデイの情報項目と重複すると介護支援専門員の仕事が煩雑になり、読まなくなる。 ・ 電話でのやりとりもあるので、記載はもっと簡潔でも良いと思う。最後まで読み込むことはあまりない。
経済状況	<ul style="list-style-type: none"> ・ ある程度の金銭的事情 ・ 前途で述べたように、経済面に配慮に欠ける相談員も時々見受けまます。一緒に考えて欲しい。 ・ 費用対効果
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見ていただける用具は、いくつかの用具を実際にもってきて手にとって利用者に試していただくのがいい（特に購入品） ・ 業者により扱っている物に違いあり、事業所の選定に配慮しているが、二つの事業所を、利用しなければならないことがある。その際、利用者への、不利益が生じないようにしたい。 ・ しっかりとされています。こちらが学びがあります。 ・ それぞれの事業所の特徴がわかる資料がほしい

5) 福祉用具専門相談員が実施しているモニタリング結果の活用について

① 福祉用具専門相談員が実施するモニタリング結果の共有状況

福祉用具専門相談員が実施するモニタリング結果の共有状況について、福祉用具貸与サービスを居宅サービス計画書に位置付けている利用者のうち、全て（10割）の利用者の福祉用具のモニタリング結果の「共有がある」と回答した介護支援専門員は40%であり、福祉用具のモニタリング結果の「共有がある」利用者の割合の平均は、約8割であった。

また、福祉用具のモニタリング結果の「共有がある」利用者の割合を0割以外と回答した場合の具体的な共有方法について、その割合を回答いただいたところ、全て（10割）の利用者について「福祉用具のモニタリングシート等による記録の共有」を受けている介護支援専門員は35.1%であったが、福祉用具のモニタリング結果の「共有がある」利用者のうち、「福祉用具のモニタリングシート等による記録の共有」を受けている利用者の割合の平均は約7割であり、「口頭のみ共有」や「その他の手段での共有」よりも「福祉用具のモニタリングシート等による記録の共有」を受けている場合が多いことがわかった。

さらに、現状の共有状況に関わらず、共有の必要性について回答いただいたところ、「全ての福祉用具貸与事業所に共有してもらいたい」が54.4%で最も多かった。

図表 39 福祉用具専門相談員が実施するモニタリング結果の共有状況

	調査数	0割	0 〵 1割未満	1割 〵 2割未満	2割 〵 3割未満	3割 〵 4割未満	4割 〵 5割未満	5割 〵 6割未満	6割 〵 7割未満	7割 〵 8割未満	8割 〵 9割未満	9割 〵 10割未満	10割	無回答	平均
共有がある	688	9	-	13	13	30	14	57	24	60	95	71	275	27	7.84
	100.0	1.3	-	1.9	1.9	4.4	2.0	8.3	3.5	8.7	13.8	10.3	40.0	3.9	

図表 40 具体的な共有方法

	調査数	0割	0割 ～ 1割未満	1割 ～ 2割未満	2割 ～ 3割未満	3割 ～ 4割未満	4割 ～ 5割未満	5割 ～ 6割未満
モニタリングシート等による記録の共有	652	21	-	20	25	34	18	48
	100.0	3.2	-	3.1	3.8	5.2	2.8	7.4
口頭のみでの共有	652	261	-	76	81	27	17	51
	100.0	40.0	-	11.7	12.4	4.1	2.6	7.8
その他の手段での共有	652	477	-	49	26	9	6	11
	100.0	73.2	-	7.5	4.0	1.4	0.9	1.7

	調査数	6割 ～ 7割未満	7割 ～ 8割未満	8割 ～ 9割未満	9割 ～ 10割未満	10割	無回答	平均 (割)
モニタリングシート等による記録の共有	652	14	32	81	65	229	65	7.35
	100.0	2.1	4.9	12.4	10.0	35.1	10.0	
口頭のみでの共有	652	11	14	17	14	18	65	2.13
	100.0	1.7	2.1	2.6	2.1	2.8	10.0	
その他の手段での共有	652	3	1	3	1	1	65	0.47
	100.0	0.5	0.2	0.5	0.2	0.2	10.0	

※調査数は図表 39「共有がある」で「0割（共有がない）」「無回答」を除く

図表 41 共有の必要性

調査数	全ての福祉用具貸与事業所に共有してもらいたい	報告すべき事項があればよい	モニタリング結果は必要としていない	福祉用具専門相談員が実施する	その他	無回答
688	374	228	-	2	84	
100.0	54.4	33.1	-	0.3	12.2	

【その他：主な自由記述】

- ・ 定期的に訪問して問題がないか点検をして、報告した方がよい
- ・ 課題がある場合は報告してもらいたい

② 福祉用具専門相談員が実施したモニタリング結果の活用場面

福祉用具専門相談員が実施したモニタリング結果の活用場面は、「介護支援専門員として実施するモニタリング評価時に活用している」が最も多く 76.8%、次いで「居宅サービス計画書見直しの要否を判断する際に活用している」が 70.2%、「福祉用具貸与サービスの見直しの要否を判断する際に活用している」が 69.3%であった。

また、「活用していない」と回答した場合、その理由は「活用したい情報が共有されていない」(40.0%) が最も多かった。

図表 42 福祉用具専門相談員が実施したモニタリング結果の活用場面（複数回答）

調査数	介護支援専門員として実施するモニタリング評価時に活用している	居宅サービスを判断する際に活用している	福祉用具貸与サービスの見直しの際に活用している	福祉用具貸与サービスの見直しの際に活用している	居宅介護支援経過記録に活用している	サービス担当者会議での検討事項に活用している	福祉用具貸与所との情報共有に活用している	その他	活用していない	無回答
652	501	458	452	185	239	407	233	3	10	32
100.0	76.8	70.2	69.3	28.4	36.7	62.4	35.7	0.5	1.5	4.9

【その他：主な自由記述】

- ・ 福祉用具のモニタリング評価をもらった時点で活用している
- ・ 料金の見直しなどの時にも活用

※調査数は図表 39「共有がある」で「0割（共有がない）」「無回答」を除く

図表 43 活用していない理由（複数回答）

調査数	活用したい情報が共有されていない	共有される情報がわかりづらい	福祉用具専門相談員のモニタリング結果は活用する必要がある	その他	特になし	無回答
10	4	1	-	2	2	1
100.0	40.0	10.0	-	20.0	20.0	10.0

【その他：主な自由記述】

- ・ 活用に至る情報がない
- ・ 福祉用具のモニタリングシートが遅れて、まとめて渡されることが多く、タイミング的に活用できない

③ 福祉用具専門相談員が実施したモニタリング結果において、参考としている情報

福祉用具専門相談員が実施したモニタリング結果において、参考としている情報は、「福祉用具サービス計画の見直し（継続・再検討・中止）を提案する理由」が最も多く 85.7%であり、次いで「利用者の身体状況・ADLの変化」が多かった（67.4%）。

図表 44 福祉用具専門相談員が実施したモニタリング結果において、参考としている情報（複数回答）

調査数	す（福祉用具サービス計画の見直し） （継続・再検討・中止）を提案する理由	利用者の身体状況・ADLの変化	利用者の意欲・意向等の変化	介護環境・住環境の変化	機器使用上の事故、ヒヤリ・ハットの有無	その他	無回答
610	523	411	294	390	228	4	1
100.0	85.7	67.4	48.2	63.9	37.4	0.7	0.2

【その他：主な自由記述】

- ・ 機器使用上の事故、ヒヤリ・ハットの様な事はないが注意喚起いただけるといい
- ・ 機具の点検
- ・ 共通理解ができているかどうかを確認します

※調査数は図表 39「共有がある」で「0割（共有がない）」「無回答」及び、図表 42で「活用していない」「無回答」を除く

④ 福祉用具専門相談員が実施したモニタリング結果を得ることによる効果

福祉用具専門相談員が実施したモニタリング結果を得ることによる効果は、「福祉用具の変更の必要性等に気づくことができる」が最も多く 88.4%であった。

図表 45 福祉用具専門相談員が実施したモニタリング結果を得ることによる効果
(複数回答)

調査数	福祉用具の変更の必要性等	住環境整備の必要性等に気づくことができる	利用安全(事故・予防)がヒヤリ感	利用者が得られる家族の変化等の情報	その他	特になし	無回答
610	539	445	334	348	8	13	5
100.0	88.4	73.0	54.8	57.0	1.3	2.1	0.8

【その他：主な自由記述】

- ・ 新しい、本人・家族の要望
- ・ 福祉用具に不備や破損がないか確認できる
- ・ 福祉用具貸与サービス以外のサービス事業所と連携が図れる
- ・ 現状の確認
- ・ 用具の劣化など
- ・ 定期的に貸与商品の状況が確認できる

※調査数は図表 39「共有がある」で「0割(共有がない)」「無回答」及び、図表 42で「活用していない」「無回答」を除く

⑤ 福祉用具専門相談員が実施するモニタリング結果において、不足している情報や視点

福祉用具専門相談員が実施するモニタリング結果において不足している情報や視点として挙げられた回答は、図表 46 に示すとおり。

図表 46 福祉用具専門相談員が実施するモニタリング結果において、不足している情報や視点（自由記述）

分類	回答
身体状況の変化の把握とそれに合わせた提案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内容のほとんどが、用具の不備（ぐらつきがないか、劣化がないか等）の点検内容であるが、福祉用具専門相談員からの視点で、身体状況からの継続が必要な理由とか、状態に対して利用が適しているかなどの意見がほしいと思う。 ・ 身体状況の変化に合わせた福祉用具の選定が福祉用具のモニタリング不足により、うまく行かないことがある。（実際にあった） ・ <u>福祉用具のモニタリング表は送付されるが、身体状況、ADL の変化まで記載されている事業所は1～2社のみ。</u> ・ <u>福祉用具の利用により、利用者の ADL がどう変化しているのか、専門相談員からの視点も伺いたい。</u> ・ <u>利用者の身体状況の変化について</u> ・ <u>身体状況の把握</u> ・ 新しい福祉用具の機種が出た際など、ご利用者様の身体状況に合わせた提案 ・ 用具の点検のみに終始しているケースがある。せっかく利用者宅を訪問するのなら、介護者も含めた生活全体を見て、客観的な視点で意見をもらえると嬉しい。 ・ 状態変化における福祉用具の変更や新たな福祉用具の提案などは少なく、ほとんど問題なく利用できているという事のみになっています。 ・ 介護支援専門員が関わっている福祉用具相談員の方と実際に点検、福祉用具のモニタリングを行っている担当者は別の事業所もあり、どこまで状況把握できているか点検が主になっているのではと思う時があります。 ・ 利用継続が必要である理由、利用者状態像から見た今後に起こり得るリスク等についての意見。 ・ 常に安全に使えています、のみの報告がある。本人の生活全般を見て報告がほしい。

<p>福祉用具の利用状況等の確認</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉用具貸与サービスを利用する中で、利用者の日常生活にどのような影響・変化(良くも悪くも)が見られているか。 ・ 生活状況、今後の見通しをふまえた評価 ・ 用具活用後の生活の変化やリスク ・ <u>利用状況、安全な利用、ヒヤリ・ハットの説明</u> ・ <u>もう少し具体的に使用状況についての記載を期待したい</u> ・ 特殊寝台においては、機能の活用ができていないかの確認とできていない場合の助言や指導不足を感じます。 ・ どのように使用しているか、頻度など、生活に役立っている理由など ・ 実際の利用状況を確認しにくいケースや商品の場合も、できる限り実情を把握してもらいたい。 ・ 福祉用具のチェックと現状使えているか（故障・新しいタイプの紹介等）で充分です ・ 商品の衛生 使用者の利用価値の変化の確認 ・ 劣化や汚れの状態。使用頻度。今後交換をすすめる時期など具体的な提案があればよい。 ・ 使い方を習得出来ているか
<p>利用者・家族の意向の確認・報告</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者様からの実際のコメントがあれば良いと思います（聞き取りだけでなく、本人の言葉で）。 ・ 福祉用具のモニタリング時、本人家族の意見を、直で報告してほしい。早目の対応につなげたい。 ・ 本人の困っている事の他に家族が介護しているうえで困っている点も福祉用具のモニタリングによって情報共有できると思う。
<p>情報共有の頻度、タイミング</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ リアルタイムの情報提供がほしい 情報が事後報告になる事がほとんど ・ 福祉用具のモニタリングをもらえる時期が結果報告となっているため活用しづらい ・ 福祉用具のモニタリング報告については、その月の末から次月月初くらいに頂ければ、活用できるかもしれないが、半年や1年、報告が来ない事業所もあるので、活用できない。 ・ 福祉用具のモニタリング日が数か月前の報告となっていると、活用できないことがある ・ 迅速な報告がないので、共有しにくい ・ 用具の不具合がなければないの情報があれば、リスク管理がしやすいと考える。（3か月に1回位の頻度でもいいので。）

	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に福祉用具のモニタリング結果を送付してくれる事業所とそうでない事業所でバラつきがある。介護支援専門員としては、やはり前者の事業所を選定することになり、利用する事業所も偏りが出てしまう。
福祉用具専門相談員が実施するモニタリングの頻度	<ul style="list-style-type: none"> 6か月に1回ではなく、訪問回数を増やし利用者の情報を共有したい。 利用者への福祉用具のモニタリング不足を感じる。 福祉用具のモニタリング頻度が、介護支援専門員より少ない為、状態の把握は介護支援専門員の方が行い易い。 事業所により福祉用具のモニタリングの頻度がちがう 不足は特に感じていない。福祉用具専門相談員が実施するモニタリングよりも、介護支援専門員の毎月訪問による情報収集の方が早いので、十分に活用できているとはいえない。
記載内容	<ul style="list-style-type: none"> 毎回コピーしているものであればいいです。 最低限のことしか書いておらず、スカスカの内容が多い。 適切な記載がないです。専門的な視点からの意見を書いて頂きたいと感じています。(毎月同じ内容のものが送られてくるのがほとんどです)
その他	<ul style="list-style-type: none"> 福祉用具専門相談員により把握している内容やレベルが違うことが多い(利用者について) 固定された方は安心して相談出来るが事業所によっては担当が変わる所がある 紙面ではなく必要に応じて訪問(電話)も度々することもコミュニケーションが取れて良い事も有り 介護支援専門員に対しての提案。用具の使用を卒業できるようになるためのアドバイス。 介護支援専門員に遠慮が多く意見を言ってもらえると良い。 項目を出来るだけ少なく見やすくしてもらいたい 今利用しているもの以外の提案 専門職としての視点からの福祉用具のモニタリング情報は、介護支援専門員として気付かされる点もあり助かっています。 どちらの事業所さんもお担当を多くもたれながらも迅速な対応や状態に合わせて必要な福祉用具の選定を行って下さる方が多いです。 皆さん、しっかりと福祉用具のモニタリングをされています。 現状の福祉用具のモニタリングで十分だと思います。 良く記載して頂いていると思います。今後も継続をしてもらいたい

	<p>と思います。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 定期的に福祉用具の訪問モニタリングしてくれるので安心して福祉用具を使用できます・ 特にない。自宅環境の変化など報告頂いている。・ 福祉用具の活用は、自立支援と介護負担の軽減に資するものです。通所介護や訪問介護を利用しなくても福祉用具の活用は必要な利用者は多くいます。このために適切にその用具の評価は必要です。
--	--

⑥ 現状の「ふくせんモニタリングシート」の項目と評価指標に対する評価

現状の「ふくせんモニタリングシート」の項目と評価指標に対する評価については、全ての項目について、「現状の記載方法で十分理解・活用できる」が8割前後で最も多かった。

また、それぞれについて「現状の記載方法ではわかりづらい・活用しづらい」と回答した場合、「わかりやすい・活用しやすい記載方法」について回答いただいた結果をa) から i) に示す。

図表 47 現状の「ふくせんモニタリングシート」の項目と評価指標に対する評価

	調査数	現状の記載方法で十分理解・活用できる	現状の記載方法ではわかりづらく活用しづらい	記載は不要である	その他	無回答
福祉用具利用目標の達成度	688	557	89	20	7	15
	100.0	81.0	12.9	2.9	1.0	2.2
利用状況の問題	688	549	119	10	2	8
	100.0	79.8	17.3	1.5	0.3	1.2
点検結果	688	559	106	12	3	8
	100.0	81.3	15.4	1.7	0.4	1.2
今後の方針	688	580	89	10	1	8
	100.0	84.3	12.9	1.5	0.1	1.2
身体状況・ADLの変化	688	540	126	11	3	8
	100.0	78.5	18.3	1.6	0.4	1.2
住環境の変化	688	564	103	11	3	7
	100.0	82.0	15.0	1.6	0.4	1.0
意欲・意向等の変化	688	543	118	12	6	9
	100.0	78.9	17.2	1.7	0.9	1.3
家族の状況の変化	688	544	112	20	5	7
	100.0	79.1	16.3	2.9	0.7	1.0
総合評価	688	572	101	3	3	9
	100.0	83.1	14.7	0.4	0.4	1.3

項目	【その他：主な自由記述】
福祉用具利用目標の達成度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標の内容を明確にしないと、達成度についても選択が難しくなると考える。 ・ 生活での必要度、利用度を数字化する方が必要性が分かる ・ 決まりきったセリフのためだけの福祉用具のモニタリングは必要ないと思います ・ 一部達成とされた目標が知りたい ・ 達成度より利用状況の記載の方がよいと思う ・ 目標の下の項目がきちんと記載されていれば状況は理解できる。 ・ 文章で記載している
利用状況の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 問題を記載してくれている。 ・ 利用状況の問題と点検結果合わせての詳細記入欄があるとよい
点検結果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活用できると思われるが、福祉用具のモニタリングが実施されているのかが疑問。 ・ 利用状況の問題と点検結果の詳細の記入欄があるとよい
今後の方針	—
身体状況・ADL の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ ADL の変化は向上と低下と2種類あり、維持を含めると3種類での評価があると良い ・ 活用できるが空欄の場合が多い
住環境の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空欄の場合が多い ・ <u>自宅の図面などがあると更に分かりやすいかと思えます。</u>
意欲・意向等の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 何か気付きがあれば、気持ちや意欲は変化があるので ・ 空欄の場合が多い ・ なし、ありの記載を外し、必須の自由記載とする。 ・ 追記があれば、なおさら良い
家族の状況の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の状況の変化より、家族からの改善してほしい要望は具体的な提案も欲しい ・ 空欄の場合が多い ・ 追記があればなおさら良い ・ 記入されていることが少ない ・ 空欄は特記欄でしょうか
総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 変更、見通しの必要があれば、伝えてもらえれば良い ・ 記載されている。

a) わかりやすい・活用しやすい記載方法_福祉用具利用目標の達成度

「福祉用具利用目標の達成度」については、「達成度の基準が示されているとよい」が最も多く 62.9%であった。

図表 48 わかりやすい・活用しやすい記載方法_福祉用具利用目標の達成度（複数回答）

調査数	達成度の基準が示されているとよい	状況等、数字で達成している点等、数字で示されている	その他	無回答
89	56	37	7	4
100.0	62.9	41.6	7.9	4.5

【その他：主な自由記述】

- ・ 現状のままでも良い
- ・ 具体的視点が欲しい
- ・ 具体的に訪問時の状況等記入されていると良い
- ・ 記述が良い
- ・ 結果は、すぐに出ないと考えています
- ・ 未達成時の簡単な評価理由
- ・ 一部達成・未達成について具体的な記載があると分かりやすい

b) わかりやすい・活用しやすい記載方法_利用状況の問題

「利用状況の問題」については、「「あり」の具体的な問題が記載されているとよい」が最も多く 79.0%であった。

図表 49 わかりやすい・活用しやすい記載方法_利用状況の問題（複数回答）

調査数	「あり」の具体的な問題が記載されている	利用頻度が高い記載され	利用場面が記載され	その他	無回答
119	94	45	51	1	2
100.0	79.0	37.8	42.9	0.8	1.7

c) わかりやすい・活用しやすい記載_点検結果

「点検結果」については、「問題あり」の具体的な問題が記載されているとよい」が最も多く 83.0%であった。

図表 50 わかりやすい・活用しやすい記載方法_点検結果（複数回答）

調査数	的問 いな る問 題と よが り記 載の さ具 れ体	さし問 れた て対 い応 る内 と容 よが いで 記実 載施	その他	無回答
106	88	60	1	2
100.0	83.0	56.6	0.9	1.9

d) わかりやすい・活用しやすい記載_今後の方針

「今後の方針」については、「福祉用具別に計画見直しの必要性が記載されているとよい」が最も多く 62.9%であった。

図表 51 わかりやすい・活用しやすい記載方法_今後の方針（複数回答）

調査数	るの福 と必社 よ要用 い性具 が別 記に 載計 さ画 れ見 て直 いし	さ画福 れ見社 て直用 いし具 るの利 と必用 よ要目 い性標 が別 記に 載計	その他	無回答
89	56	51	2	6
100.0	62.9	57.3	2.2	6.7

【その他：主な自由記述】

- ・ 点検結果で問題ありの場合は、再検討の理由等の箇所に具体的な記載があると良い
- ・ ケアプランと個別計画書は別だと理解してほしい

e) わかりやすい・活用しやすい記載_身体状況・ADL の変化

「身体状況・ADL の変化」については、「前回の福祉用具のモニタリング実施時からの変化が記載されているとよい」が最も多く 64.3%であった。

図表 52 わかりやすい・活用しやすい記載方法_身体状況・ADL の変化（複数回答）

調査数	確認した結果が記載され	前回のモニタリング実施時	その他	無回答
126	79	81	2	4
100.0	62.7	64.3	1.6	3.2

【その他：主な自由記述】

- ・ 変更の必要性の度合い
- ・ 余白に書いてあると助かる

f) わかりやすい・活用しやすい記載_住環境の変化

「住環境の変化」については、「確認した結果が記載されているとよい」が最も多く 65.0%であった。

図表 53 わかりやすい・活用しやすい記載方法_住環境の変化（複数回答）

調査数	確認した結果が記載され	前回のモニタリング実施時	その他	無回答
103	67	62	-	4
100.0	65.0	60.2	-	3.9

g) わかりやすい・活用しやすい記載_意欲・意向等の変化

「意欲・意向等の変化」については、「確認した結果が記載されているとよい」が最も多く 72.9%であった。

図表 54 わかりやすい・活用しやすい記載方法_意欲・意向等の変化（複数回答）

調査数	て確認した結果が記載され	いからのモニタリングが実施されて	その他	無回答
118	86	70	-	1
100.0	72.9	59.3	-	0.8

h) わかりやすい・活用しやすい記載_家族の状況の変化

「家族の状況の変化」については、「確認した結果が記載されているとよい」が最も多く 72.3%であった。

図表 55 わかりやすい・活用しやすい記載方法_家族の状況の変化（複数回答）

調査数	て確認した結果が記載され	いからのモニタリングが実施されて	その他	無回答
112	81	64	1	2
100.0	72.3	57.1	0.9	1.8

【その他：主な自由記述】

- ・ 生活状況等

i) わかりやすい・活用しやすい記載_総合評価

「総合評価」については、「福祉用具別に計画見直しの必要性が記載されているとよい」が最も多く 74.3%であった。

図表 56 わかりやすい・活用しやすい記載方法_総合評価 (複数回答)

調査数	の福祉用具別に計画見直し	画面で見ると必要な項目が別記載	その他	無回答
101	75	53	1	4
100.0	74.3	52.5	1.0	4.0

【その他：主な自由記述】

- ・ 具体的な記載があれば良い

⑦ 「ふくせんモニタリングシート」に加えると良い項目

「ふくせんモニタリングシート」に加えると良い項目は、「利用者・家族が使用中に困ったこと等の聞き取り内容」が最も多く 51.7%であった。

図表 57 「ふくせんモニタリングシート」に加えると良い項目（複数回答）

調査数	メンテナンスに対する処置等、安全性	誤操作・誤使用の有無	誤操作・誤使用の内容やそれに対する再指導等の対応内容	ヒヤリ・ハットの有無	指導内容や対応内容	ヒヤリ・ハットの具体的な内容	困ったこと等の聞き取り内容	利用者・家族が使用中に	利用者の満足度
688	269	174	219	142	180	356	234		
100.0	39.1	25.3	31.8	20.6	26.2	51.7	34.0		

調査数	福祉用具導入後の生活全般に関する変化	別身体状況・ADLの項目の確認結果	連絡事項記入欄	介護専門支援専門員と福祉用具相談員、双方への	その他	特になし	無回答
688	258	124	120	4	85	35	
100.0	37.5	18.0	17.4	0.6	12.4	5.1	

【その他：主な自由記述】

- ・ 選択肢の殆んど実践上は記録されている
- ・ 福祉用具のモニタリングは定期点検でよいと思います
- ・ マットレスのリフレッシュ交換の時期など
- ・ 気付は項目を増やすのではなくその他の記入が良い

⑧ 福祉用具専門相談員が実施するモニタリングへの要望等

福祉用具専門相談員が実施するモニタリングへの要望等として挙げられた回答は図表 58 のとおり。

図表 58 福祉用具専門相談員が実施するモニタリングへの要望等（自由記述）

分類	回答
身体状況等の変化に合わせた提案	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歩行器等、実際に利用していただき適切か判断してほしい。利用者の身体状況変化により、大きさや高さに変化があるかもしれない用具のチェック（メンテナンス）のみの福祉用具のモニタリングも多いと思われる。 ・ 状態変化時の提案等があれば参考にしたい。 ・ 身体状態の変化での提案 ・ 生活状況、今後の見通しをふまえた評価。特記事項の必要に応じて電話等の連絡がほしい。（書面のみでなく） ・ 本人やその環境の変化によりミスマッチになることもあるので、本人やその環境に応じた提案をしてもらおうと利用者に利益になると思います ・ <u>利用開始時や前回の福祉用具のモニタリング時と比較して、どのような変化が見られているのか・見られていないのか、継続的な視点で意見がもらえると嬉しい。</u>
利用者・家族の意向の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族全体へのヒアリングを実施して状況共有したい。 ・ フォーマットの問題ではなく、聞き取りと記述の内容の問題だと思う。訪問した時には、用具の点検のみに終始せず、5分で良いので、「利用者や家族が話したい話」に耳を傾けてほしい。 ・ 福祉用具の点検が主になっており、利用者・家族の聞き取りや再指導等がなされていないことがあります。
福祉用具の必要性の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉用具の使用状況だけでなく、福祉用具活用による効果や継続の必要性なども評価してもらいたい。 ・ 福祉用具貸与でほとんど利用していないものはないか。もし、あったら必要性を聴いて教えてほしい ・ 使用していない、使用できていない福祉用具の引き上げの検討や代替商品の提案等を強化してほしいです。
福祉用具専門相談員が実施するモニタリング	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉用具のモニタリングに定期的に行っているのかわからない。 ・ 少なくとも定期的に訪問してほしい ・ 頻度を増やしてほしい ・ 福祉用具のモニタリングを短期間で実施してほしい。

<p>の頻度、タイミング</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者のケガや事故を防ぐために、定期的な点検と使用状況の確認をお願いします。 ・ 大勢利用しているため、詳細に福祉用具のモニタリングを行うのは困難なのだと思います。毎月訪問した際、こちらで気になったことがあれば事業所に連絡し見てもらうことが多い。訪問でなくとも電話連絡等で確認していただくとありがたいです。 ・ 福祉用具のモニタリングの時期をケアプラン短期満了や更新時期に行ってもらえるとありがたい ・ どの事業所でも定期的に行われているようですが、依頼時にも行っていただくとありがたいです。
<p>情報共有の頻度、タイミング</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉用具のモニタリング訪問をした時には、その様子を（特に変化があったこと）確実に報告して頂くこと。 ・ タイムリーに届いていないのでわかりません ・ 事業所によっては福祉用具のモニタリング後の報告が遅い場合があります、出来ればタイムリーにもらえると助かります。 ・ 福祉用具のモニタリング後、変更の必要性がある場合は迅速な連絡対応。 ・ 福祉用具のモニタリング表がこない事業所もあるので、きちんと福祉用具のモニタリングがされてるか分からない部分があります。実際に本人の身体状況に合わない車イスが選定されたことがありました。
<p>情報量、情報共有の方法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 出来るだけ項目をまとめるか減らして見やすくしてもらいたい ・ 全体的に記録物・内容が多すぎてここに時間を要してしまう。できるだけ記入する方も確認する方も簡潔が良いのでは。 ・ チェックのみでいいと思います。重要なことは、電話や同行訪問する為 ・ チェック項目の様式が増えて書類ばかりになるのは介護支援専門員の業務の効率を下げる 必要な情報がシンプルにわかるものであってほしい ・ 問題事項等確認された時は再検討、サービス担当者会議等のアクションにつなげる為連携しますので文書報告では簡潔が良いと思います。 ・ 書類を増やす事が重要でなく、定期的に点検と相談ができる事が重要なので2か月に1度訪問か電話での記録を頂く方が助かります ・ 毎月、3か月、6か月と各社それぞれ福祉用具のモニタリングシートを送ってくれますが、介護支援専門員の立場では不要と考えま

	<p>す。利用者の方に変化があった時、すぐ相談にのってくれて専門家の意見をもらえることで有難いです</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 口頭の説明等が一番わかりやすい
次回訪問日の共有	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次回訪問日。 ・ 福祉用具のモニタリングに伺う前に連絡が欲しい。同行したい。 ・ 福祉用具のモニタリングに訪問する日を事前に知らせてほしい ・ 福祉用具のモニタリングを行う時期（具体的な日時）を伝えて欲しい。
様式の統一	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉用具貸与事業所によって書式が様々であり統一されていない。事業所によっては項目が無いものもある。標準の様式に沿った福祉用具のモニタリングシートを提供して欲しい。 ・ 現状では業者によって福祉用具の計画表やモニタリング表が異なっていて内容がほぼないものもある。ほぼふくせんのものを使っている業者もある。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 緊急時の使い方（停電時等）対応について定期的に確認や実施指導して欲しい。書類を頂いてもタイムリーに確認する時間が不足してしまう。 ・ 例えば、マットレスのリフレッシュ交換の目安、歩行器や杖のゴム部品の磨耗状況、類似商品の新機種情報などの情報を織り込んでもらえるといい。 ・ 備考欄の納品の福祉用具の写真が載っているのでわかりやすい ・ 手すりの移動など図（家屋図を利用して連絡して頂けると分かりやすい ・ セニアカーの運転技能の確認 ・ 導入初期と計画期間終了前の適正判断 ・ ふくせんモニタリングシートに加えると良い項目について、現状のふくせんモニタリングシートで良いと思います ・ 現行様式で良いと思います ・ 専門職として訪問、実施してくれる福祉用具のモニタリング情報は、職種の違いによる視点があり、とても役立っています。 ・ とても助かっている。ありがたいと思う。 ・ これからもよろしく願いいたします。

6) 福祉用具専門相談員を利用者に紹介する際に重視するポイントについて

① 営業体制

福祉用具専門相談員を利用者に紹介する際に重視するポイントのうち、事業所の営業体制に関するものについては、「納品（対応）のスピード」が78.5%と最も多く、次いで「デモ対応」が53.3%であった。

図表 59 福祉用具専門相談員を利用者に紹介する際に重視するポイント
営業体制（最大3つまで回答）

調査数	営業担当の訪問回数	納品（対応）のスピード	品質（消毒・補修）	取扱商品の豊富さ	デモ対応	レンタル価格	土・祝日の対応	緊急時（日曜・深夜）対応	カタログなど福祉用具に関する資料の充実	住宅改修の対応	その他	無回答
688	80	540	86	125	367	135	160	140	18	102	31	77
100.0	11.6	78.5	12.5	18.2	53.3	19.6	23.3	20.3	2.6	14.8	4.5	11.2

【その他：主な自由記述】

- ・ 営業担当の商品知識、利用者家族への対応、態度
- ・ メンテナンス等フォローアップ体制
- ・ 担当の資質
- ・ 適切な福祉用具の選定と提案が迅速にできる。
- ・ 適切な用具の提案や変更など行える。
- ・ 利用終了時のひきあげのスピード
- ・ コミュニケーション能力 人間性
- ・ 本人・家族への説明能力
- ・ 説明力、提案力
- ・ 職員の知識
- ・ 親切、丁寧な対応
- ・ 担当の人柄
- ・ 担当者のアセスメント力
- ・ 専門的見地での意見
- ・ 信頼関係
- ・ 担当者のマナー
- ・ 申請書類作成能力
- ・ 専門的な対応の状況
- ・ 医療用器具取扱の有無

② 業務遂行能力

福祉用具専門相談員を利用者に紹介する際に重視するポイントのうち、業務遂行能力に関するものについては、「福祉用具や利用事例に関する情報提供・相談対応」が51.7%と最も多く、次いで「ケアマネジャーとの連携」が40.3%であった。

図表 60 福祉用具専門相談員を利用者に紹介する際に重視するポイント
業務遂行能力（最大3つまで回答）

調査数	福祉用具や利用事例に関する情報提供・相談対応	アセスメント（利用者・環境の評価）	用具の選定、作成内容、提案、利用計画	福祉用具の適合調整・利用指導	搬入・設置・搬出の円滑実施	フォロー、モニタリング	利用者・家族とのコミュニケーション	困難事例への対応力	サービス担当者会議での発言・提案	ケアマネジャーとの連携	その他	無回答
688	356	80	193	208	190	146	191	117	71	277	4	82
100.0	51.7	11.6	28.1	30.2	27.6	21.2	27.8	17.0	10.3	40.3	0.6	11.9

【その他：主な自由記述】

- ・ 拘縮へのポジショニング
- ・ 介護保険制度の理解度
- ・ 全て必要

③ 専門知識

福祉用具専門相談員を利用者に紹介する際に重視するポイントのうち、専門知識に関するものについては、「福祉用具、新製品の知識」が67.2%と最も多く、次いで「住環境と住宅改修に関する知識」が65.7%であった。

図表 61 福祉用具専門相談員を利用者に紹介する際に重視するポイント
専門知識（最大3つまで回答）

調査数	介護保険サービスの知識	福祉用具、新製品の知識	高齢者の日常生活に関する知識	介護技術、リハビリテーションに関する知識	住環境と住宅改修に関する知識	認知症に関する知識	高齢者の身体特性、疾患に関する知識	その他	無回答
688	275	462	168	126	452	34	203	8	66
100.0	40.0	67.2	24.4	18.3	65.7	4.9	29.5	1.2	9.6

【その他：主な自由記述】

- ・ 代替のきく方法、アレンジ力
- ・ 多職種連携できる人
- ・ コミュニケーション能力
- ・ アドバイスをもらっている
- ・ 個別の具体的事例が豊富
- ・ 適格なアドバイスがあるとよいと思っています
- ・ 基本的には全て必要

④ その他

福祉用具専門相談員を利用者に紹介する際に重視するポイントのうち、上記以外に関するものについては、図表 62 のとおり。

図表 62 福祉用具専門相談員を利用者に紹介する際に重視するポイント_その他
(自由記述)

分類	回答
人柄、相性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人柄や相性 ・ ひととなり ・ 利用者本人、家族との相性も考え事業所の調整 ・ 介護支援専門員だけでなく、利用者、家族の接し方。ケアチームとしてしっかり参加、連携して頂ける人柄、人材かどうか。 ・ お客様からの定評を頂いている事業所担当者さんへの依頼が多いです。公平中立の観点からも定評の事業所さんや距離の関係もあるため、上記以外の理由もあります。
専門性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 的確なアドバイスができ、親切でいねいに説明が行える事業所 ・ 専門性があること そして専門性を発揮してもらえること 熱意 ・ 担当者の能力、レベルで利用者さんの生活が変わることが生活 QOL への影響が大です。介護支援専門員の負担が減ることを実感しています。勉強不足を感じると、頼れる人への依頼が多くやや事業所の偏りもあります。 ・ 福祉用具専門相談員により福祉用具に対する知識・設置技術等が、かなり異なります。知識のある福祉用具専門相談員は利用者も安心されます。 ・ 専門的な知識は全部知っていてほしい。福祉用具の必要性は退院時や初回訪問時からあり、一緒に行動するため、理学療法士や作業療法士とともに選定していただくこともある。事業所に頻繁に来てくださり、貸与品、購入品は同じ物なら安く、担当の方の迅速な動きと気遣い等で選んでいる。 ・ 福祉用具専門相談員が種々ある床ずれ予防用具の特徴を比較し一覧にまとめています。選択の際介護支援専門員としても状態を把握して勧めることが出来ます
提案力、スピード	<ul style="list-style-type: none"> ・ サービス担当者会議では、提案等発言希望 ・ スピードと提案力。 ・ 入院している方など、退院前日に病院から依頼が来ることもあるので、納品のスピードを私は重視しています

価格	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自費レンタルとなる場合は、価格の低い事業所を紹介する様にしている。
コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> ・ 福祉用具の方とは日常業務の中で良き相談相手です。それぞれの会社の担当者の方の特徴を考えながら相談しています。決められたモニタリングシートは只紙が増えるだけで、有難いとは思いません。顔の見える関係で相談できてこそよい支援になると考えています ・ ※記録も大切だと思いますが、当事業所では、それぞれの事業所とのコミュニケーションを重要としています。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 営業所の中で特定の人だけが仕事ができるのではなく、どの担当者でも同じように動ける（＝事業所の中で情報共有ができている）点も重視している。 ・ 障害分野と被ることも増えてきたので、障害給付について詳しいと助かる。社会人としてのコミュニケーションがきちんと取れること、が大前提だが、その条件を満たしていない人も少なくない。 ・ 自社の福祉用具ばかりをすすめてくる。本当に利用者のことを考えて頂きたいです。 ・ 各市町村により、若干ちがう所があるにも関わらず、本人や家族に常識であるかの様に話をされると困ってしまう。他市町村も対応している所は、なるべく紹介したくないです ・ 即答できなくても誠実に対応できる余裕があるとよい。高齢者それぞれのペースに合わせることでできる精神的余裕がほしい。 ・ 清潔感 ・ 上記内容は最大3つでは足りないと思います。できれば、すべてが「重要なこと」と思っております。 ・ チェックしていない項目も、必要だと思います。 ・ おそらくコロナ禍でタイミングよくご家族に会えないのだろうとお察しします。用紙は遅れて届くことが多い様に感じます。 ・ うまく利用する事で生活の活動範囲が広がり助かっています。ニーズに対応できる新製品にも期待します。 ・ リハビリ専門職との連携で昇降座椅子と導入し膝痛が消失し通所リハビリを活用しなくても自宅内は移動可能になったケースがあった。

(3) 調査結果のまとめ

本項では、アンケート調査から得られた結果を、介護支援専門員による福祉用具サービス計画やモニタリングシートの活用について、ふくせん福祉用具サービス計画書やふくせんモニタリングシートの項目・記載内容等について、福祉用具専門相談員を利用者に紹介する際に重視するポイントについての3点からまとめた。

1) 介護支援専門員による福祉用具サービス計画やモニタリングシートの活用について

福祉用具サービス計画は、介護支援専門員が実施するモニタリングの際に最も多く活用されており、そのほか居宅サービス計画見直しの必要性を判断する際やサービス担当者会議での検討事項に活用しているとの回答が多かった（図表 28）。

福祉用具のモニタリングシートは、福祉用具サービス計画と異なり、介護支援専門員への交付が義務付けられているものではないが、約8割の利用者について福祉用具専門相談員が実施するモニタリング結果の共有が行われており、そのうちの7割以上はモニタリングシート等により共有が行われていることがわかった（図表 39 及び図表 40）。活用場面としては、福祉用具サービス計画と同様に、介護支援専門員が実施するモニタリングの際に最も多く活用されており、そのほか居宅サービス計画書や福祉用具貸与サービスの見直しの必要性を判断する際に活用しているとの回答が多かった（図表 42）。

このように、福祉用具サービス計画や福祉用具のモニタリングシートが、介護支援専門員との連携にも活用されている実態が把握できた一方で、福祉用具専門相談員が実施するモニタリングの実施時期や情報共有のタイミング等の問題により、共有される情報がリアルタイムの情報でないため活用しづらい、必要な時に手元になく、電話等で確認している、といった声も一部の介護支援専門員から寄せられており、様式の項目・記載内容のみならず、福祉用具サービス計画の作成時期やモニタリングの実施時期、情報共有のタイミング等の運用面についても、多職種連携を見据えた見直しや周知等が必要であると考えられる。

2) ふくせん福祉用具サービス計画書やふくせんモニタリングシートの項目・記載内容等について

① ふくせん福祉用具サービス計画書（基本情報）

現状の「ふくせん福祉用具サービス計画書（基本情報）」の項目に対して、概ね8割前後の介護支援専門員が、「現状の項目で十分理解・活用できる」と評価していた（図表 35）。一方で、「現状の項目では不足している」との回答も一部存在しており、特に住環境については、その割合が1割を超えていた（図表 35）。

福祉用具専門相談員から提供される情報のうち、居宅サービス計画書作成の参考に行っている情報として「住環境整備提案情報」が2番目に多く挙げられていることや、福祉用具専門相談員を利用者に紹介する際に重視するポイントのうち専門知識に関するものとして「住環境と住宅改修に関する知識」が2番目多く挙げられていることから、介護支援専門員は福祉用具専門相談員から提供される住環境に関する情報を非常に重視していると考えられる（図表 23 及び図表 61）。具体的な意見・要望として、家屋の見取図や福祉用具が必要な箇所の間取り等を求める声もあったことから、様式の見直しにあたっては、住環境に関する情報の充実に向け、これらの項目の必要性について検討する必要があると考えられる（図表 35）。

また、福祉用具専門相談員に把握しておいてもらいたい事項としては、身体状況・ADL 等に関する意見・要望が最も多く挙げられており、具体的には、疾患・既往歴や、病状、服薬状況、認知症の有無・程度等の意見があった（図表 34 及び図表 36）。その他、利用者・家族の意向や介護環境等についても具体的な状況の把握を望む声があり、改編様式の作成にあたっては、福祉用具の選定に資する利用者の情報をより詳細に収集・記録できるよう、現状の項目の記入充足率の向上や記載内容の充実に向けた見直し、項目の追加等を行う必要があると考えられる（図表 36）。

② ふくせん福祉用具サービス計画書（選定提案）

現状の「ふくせん福祉用具サービス計画書（選定提案）」の項目に対する評価は、「福祉用具が必要な理由」、「提案する理由」とともに、「現状の項目で十分理解・活用できる」が90%以上であった（図表 37）。選定提案については、介護支援専門員への交付が義務付けられているものではないため、現状の共有状況や活用状況等については把握できていないものの、介護支援専門員に求められている情報としては、現状の項目で十分であると考えられる。

一方で、利用者に複数提案を行う際の福祉用具専門相談員への要望等としては、より利用者の身体状況等に合った提案や、メリット・デメリット等の丁寧な説明などを求める声があり、福祉用具専門相談員の提案力・説明力等の向上が、更なる多職種との連携強化につながると考えられる（図表 38）。

③ ふくせん福祉用具サービス計画書（利用計画）

現状の「福祉用具サービス計画（ふくせん様式に限らない）」の項目に対しては、全ての項目について「現状の記載方法で十分理解・活用できる」との評価が約70～80%であったものの、約20%の介護支援専門員からは「現状の記載方法ではわかりづらい・活用しづらい」との評価を受けた（図表30）。

「福祉用具利用目標」の記載内容については、95.5%の介護支援専門員が「居宅サービス計画書の目標に紐づいた福祉用具利用目標が記載されている」と評価している一方で、具体的な記載状況に対する評価については、「目標の達成度合が把握できるような利用状況・利用頻度等が5W1Hで記載されている」が26.9%、「目標の達成度合が把握できるような数値目標が記載されている」が17.5%であり、目標の達成度合が把握できるような目標の記載となっていない場合があることが改めて把握された（図表26及び図表27）。

「福祉用具利用目標」のわかりやすい・活用しやすい記載方法としては、「自立支援」「介護者負担軽減」等、目標の位置づけが把握できるとよい」との意見が最も多く挙げられており、様式の見直しにあたっては、目標の位置づけの明確化や、達成度の評価といった視点から、検討が必要であると考えられる（図表31）。

また、その他の項目のわかりやすい・活用しやすい記載方法としては、「福祉用具の機種と当該機種を選択した理由（選定理由）」については「機種別の特徴や違いが簡易に把握できるとよい」、「関係者間で共有すべき情報（使用時の注意事項）（留意事項）」については「誤操作や事故の危険性についての注意事項」といった意見・要望が最も多く挙げられており、これらの意見も踏まえたうえで様式の見直しを行うことが必要である（図表32及び図表33）。

④ 福祉用具のモニタリングシート

福祉用具のモニタリングシートは、1)で記載した通り、介護支援専門員が実施するモニタリングの際や居宅サービス計画書、福祉用具貸与サービスの見直しの必要性を判断する際に活用されており、「福祉用具サービス計画の見直し（継続・再検討・中止）を提案する理由」や「利用者の身体状況・ADLの変化」等の情報が特に重視されていることがわかった（図表42及び図表44）。

現状の「ふくせんモニタリングシート」の項目と評価指標に対しては、全ての項目について、「現状の記載方法で十分理解・活用できる」との評価が8割前後であった。一方で、「現状の記載方法ではわかりづらい・活用しづらい」と回答した介護支援専門員からは、各項目のわかりやすい・活用しやすい記載方法として、福祉用具利用目標の達成度の基準が示されているとよい、利用状況や点検結果に問題がある場合は、その具体的な問題が記載されているとよい、福祉用具別に計画見直しの必要性が記載されているとよい、前回のモニタリング実施時からの身体状況・ADLの変化が記

載されているとよい、等の意見・要望が挙げられており、福祉用具専門相談員の記録に係る業務負担も考慮しながら、より具体的な内容が把握可能な項目・記載方法の見直しを行う必要があると考えられる（図表 47～図表 56）。

3) 福祉用具専門相談員を利用者に紹介する際に重視するポイントについて

福祉用具専門相談員を利用者に紹介する際に重視するポイントを、事業所の営業体制、業務遂行能力、専門知識の3つの観点からそれぞれ回答いただいたところ、事業所の営業体制については、「納品（対応）のスピード」及び「デモ対応」、業務遂行能力については、「福祉用具や利用事例に関する情報提供・相談対応」及び「ケアマネジャーとの連携」、専門知識については、「福祉用具、新製品の知識」及び「住環境と住宅改修に関する知識」が特に重視されていることがわかった（図表 59、図表 60 及び図表 61）。また、上記3つの観点以外では、福祉用具専門相談員の人柄や利用者・家族との相性、コミュニケーション能力、説明能力、提案力など様々なポイントが挙げられていた。これらの結果を踏まえると、福祉用具貸与サービスの質を高め、介護支援専門員との連携を促進するためには、福祉用具専門相談員が、専門知識だけでなく、提案力や対応力等も向上させていくことが重要であると考えられる。本会が実施している福祉用具専門相談員更新研修（ふくせん認定）においては、コミュニケーション技術・業務プロセスに関するスキルの向上等がカリキュラムに組み込まれており、介護支援専門員との更なる連携促進に寄与できると考える。また、個人のスキルの向上だけでなく、納品スピードやデモ対応等、事業所としての体制の充実も必要であると考えられる。

3-3. 福祉用具貸与計画書等の改編様式の作成

(1) 実施概要

本事業の目的である福祉用具貸与サービスの質の向上に向けた記録項目や記載内容の基準の可視化・標準化に資する項目の標準化及びふくせん福祉用具サービス計画書等の改編様式の作成に向け、令和2年度に実施した調査研究事業において明らかとなった課題への解決策や、介護支援専門員へのアンケート調査結果から抽出された他職種に提示すべき情報等を踏まえたふくせん福祉用具サービス計画書等の見直しを行った。各様式の見直しにあたっては、作業部会及び検討委員会での議論とともに、福祉用具専門相談員が実際のサービス提供において活用できる様式となっているか、見直した様式の妥当性等を確認するための試行運用も行い、現場の福祉用具専門相談員の意見も含めたふくせん福祉用具サービス計画書等の改編様式を作成した。

(2) ふくせん福祉用具サービス計画書等の見直し

本事業では、本会が現在公表しているふくせん福祉用具サービス計画書及びふくせんモニタリングシートを対象に見直しを行うこととし、見直しの方向性及び見直し案を事務局にて作成した上で作業部会及び検討委員会場で議論いただいた。作業部会及び検討委員会等のご意見も踏まえ、試行運用に向けたふくせん福祉用具計画書等の試行運用版を作成した。

また、検討委員会において福祉用具専門相談員による利用計画策定までの検討プロセスの記録がないことが課題として挙げられた。よって、本事業では既存のふくせん福祉用具サービス計画書及びふくせんモニタリングシートの見直しだけでなく、基本情報から得た情報を利用計画に落とし込む際のプロセスを見える化するための新たな様式（ふくせん計画プロセスシート）も作成し、試行運用においてその有用性等を確認することとした。

本事業において見直し及び作成を行った様式は以下のとおり。

○ ふくせん福祉用具サービス計画書

- ・基本情報
- ・利用計画

※選定提案については、平成30年度に追加された様式であり、本事業の目的を踏まえ見直しの必要性はないと判断し対象外とした

○ ふくせんモニタリングシート（訪問確認書）

○ ふくせん計画プロセスシート ※新規作成

図表 63 【試行運用版】ふくせんサービス計画書（基本情報）

【現在の様式】

【試行運用版改編案】

ふくせん 福祉用具サービス計画書 (基本情報)		管理番号
フリガナ	性別	生年月日
利用者名	様	M-T-S 年 月 日
住所	TEL	認定期間
〒番号	TEL	～
相談内容	相談者	相談日
ケアマネジャーの相談記録	ケアマネジャーの相談記録	
身長	cm	体重
kg		
歩行	歩行がつかいにくい	歩行がつかいやすい
起立上がり	起立がつかいにくい	起立がつかいやすい
立ち上がり	立ち上がりがつかいにくい	立ち上がりがつかいやすい
移動	移動がつかいにくい	移動がつかいやすい
座り	座りがつかいにくい	座りがつかいやすい
入浴	入浴がつかいにくい	入浴がつかいやすい
食事	食事がつかいにくい	食事がつかいやすい
更衣	更衣がつかいにくい	更衣がつかいやすい
意思の伝達	意思の伝達がつかいにくい	意思の伝達がつかいやすい
視覚・聴覚	視覚・聴覚がつかいにくい	視覚・聴覚がつかいやすい
認知	認知がつかいにくい	認知がつかいやすい
その他	その他がつかいにくい	その他がつかいやすい
原宅サービス計画	住環境	
利用者が及び家族の生活に対する意向	利用者の意向	
総合的な援助方針		

ふくせん 福祉用具サービス計画書 (基本情報)		管理番号
フリガナ	性別	生年月日
利用者名	様	M-T-S 年 月 日
住所	TEL	認定期間
〒番号	TEL	～
相談内容	相談者	相談日
ケアマネジャーの相談記録	ケアマネジャーの相談記録	
重要度	重要度	
利用者の現状・意向(今回伺っていること)	①	福祉用具に期待することなど
疾病	②	慢性進行性 急性進行性
禁忌・注意事項		
身長	cm	体重
kg		
歩行	歩行がつかいにくい	歩行がつかいやすい
起立上がり	起立がつかいにくい	起立がつかいやすい
立ち上がり	立ち上がりがつかいにくい	立ち上がりがつかいやすい
移動	移動がつかいにくい	移動がつかいやすい
座り	座りがつかいにくい	座りがつかいやすい
入浴	入浴がつかいにくい	入浴がつかいやすい
食事	食事がつかいにくい	食事がつかいやすい
更衣	更衣がつかいにくい	更衣がつかいやすい
意思の伝達	意思の伝達がつかいにくい	意思の伝達がつかいやすい
視覚・聴覚	視覚・聴覚がつかいにくい	視覚・聴覚がつかいやすい
認知	認知がつかいにくい	認知がつかいやすい
その他	その他がつかいにくい	その他がつかいやすい
活動・参加	④	
日常生活におけるリスク(福祉用具利用の有無に関わらず)	⑤	

【改編の主なポイント】

- ①意欲・意向
福祉用具専門相談員として最も重視いただきたい事項であるため、最上段へ移動させ、重要度の高さを強調
- ②疾病を記載後、慢性進行性なのか、急性進行性なのかを記載
疾病に起因する禁忌・注意事項を記載（アセスメント結果及び他職種から入手）
- ③【新規追加】関節可動域障害・高次脳機能障害・認知症の有無
（アセスメント結果及び他職種から入手）
- ④【新規追加】活動・参加
利用者の生活や活動範囲等、福祉用具の利用状況が想定される情報として確認・記載
- ⑤【新規追加】日常生活におけるリスク（福祉用具利用の有無に関わらず）
福祉用具の提案にあたり、配慮しておくべき事項として過去の事故やヒヤリ・ハットの発生状況等を確認・記載

図表 64 【試行運用版】ふくせんサービス計画書（利用計画）
【現在の様式】

ふくせん 福祉用具サービス計画書(利用計画)						管理番号																											
利用者名	種	生年月日	年齢	要介護	認定期間																												
生活全般の解決すべき課題・ニーズ (福祉用具が必要な理由)						福祉用具利用目標																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>単位数</th> <th>選定理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>①</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>②</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>③</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>④</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>⑤</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>⑥</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>⑦</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>⑧</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>						品目	単位数	選定理由	①			②			③			④			⑤			⑥			⑦			⑧			
品目	単位数	選定理由																															
①																																	
②																																	
③																																	
④																																	
⑤																																	
⑥																																	
⑦																																	
⑧																																	
<input type="checkbox"/> 私は、自身の様様となる福祉用具の全国平均貸与価格等の説明を受けました。 <table border="1"> <tr><td>日付</td><td>年</td><td>月</td><td>日</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>						日付	年	月	日																								
日付	年	月	日																														
<input type="checkbox"/> 私は、自身の様様となる機能や価格の異なる複数の福祉用具の提示を受けました。 <table border="1"> <tr><td>署名</td><td>印</td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> </table>						署名	印																										
署名	印																																
<input type="checkbox"/> 私は、福祉用具サービス計画の内容について説明を受け、内容に同意し、計画書の交付を受けました。 <table border="1"> <tr><td>（継続）代筆者名</td><td>（ ）</td><td>印</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>						（継続）代筆者名	（ ）	印																									
（継続）代筆者名	（ ）	印																															
事業者名 TEL FAX 住 居																																	

【試行運用版改編案】

ふくせん 福祉用具サービス計画書(利用計画)						管理番号																																
利用者名	種	生年月日	年齢	要介護	認定期間																																	
生活全般の解決すべき課題・ニーズ (福祉用具が必要な理由)						福祉用具利用目標																																
<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">最も重視する目的</th> <th colspan="2">福祉用具利用目標</th> </tr> <tr> <th>【品目】を使って【生活場面】の【なんの動作】が【どの程度】【いつまでに】【可能になる】</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td><input type="checkbox"/> 自立支援</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 心身機能の維持</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 介護負担の軽減</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 介護負担の軽減</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 介護負担の軽減</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 介護負担の軽減</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 介護負担の軽減</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 介護負担の軽減</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td><input type="checkbox"/> 介護負担の軽減</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>						最も重視する目的	福祉用具利用目標		【品目】を使って【生活場面】の【なんの動作】が【どの程度】【いつまでに】【可能になる】		<input type="checkbox"/> 自立支援			<input type="checkbox"/> 心身機能の維持			<input type="checkbox"/> 介護負担の軽減			<input type="checkbox"/> 介護負担の軽減			<input type="checkbox"/> 介護負担の軽減			<input type="checkbox"/> 介護負担の軽減			<input type="checkbox"/> 介護負担の軽減			<input type="checkbox"/> 介護負担の軽減			<input type="checkbox"/> 介護負担の軽減			
最も重視する目的	福祉用具利用目標																																					
	【品目】を使って【生活場面】の【なんの動作】が【どの程度】【いつまでに】【可能になる】																																					
<input type="checkbox"/> 自立支援																																						
<input type="checkbox"/> 心身機能の維持																																						
<input type="checkbox"/> 介護負担の軽減																																						
<input type="checkbox"/> 介護負担の軽減																																						
<input type="checkbox"/> 介護負担の軽減																																						
<input type="checkbox"/> 介護負担の軽減																																						
<input type="checkbox"/> 介護負担の軽減																																						
<input type="checkbox"/> 介護負担の軽減																																						
<input type="checkbox"/> 介護負担の軽減																																						
<table border="1"> <thead> <tr> <th>品目</th> <th>単位数</th> <th>選定理由</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>①</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>②</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>③</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>④</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>⑤</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>⑥</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>⑦</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>⑧</td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>						品目	単位数	選定理由	①			②			③			④			⑤			⑥			⑦			⑧								
品目	単位数	選定理由																																				
①																																						
②																																						
③																																						
④																																						
⑤																																						
⑥																																						
⑦																																						
⑧																																						
<input type="checkbox"/> 私は、自身の様様となる福祉用具の全国平均貸与価格等の説明を受けました。 <table border="1"> <tr><td>日付</td><td>年</td><td>月</td><td>日</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>						日付	年	月	日																													
日付	年	月	日																																			
<input type="checkbox"/> 私は、自身の様様となる機能や価格の異なる複数の福祉用具の提示を受けました。 <table border="1"> <tr><td>署名</td><td>印</td></tr> <tr><td></td><td></td></tr> </table>						署名	印																															
署名	印																																					
<input type="checkbox"/> 私は、福祉用具サービス計画の内容について説明を受け、内容に同意し、計画書の交付を受けました。 <table border="1"> <tr><td>（継続）代筆者名</td><td>（ ）</td><td>印</td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td></tr> </table>						（継続）代筆者名	（ ）	印																														
（継続）代筆者名	（ ）	印																																				
事業者名 TEL FAX 住 居																																						

【改編の主なポイント】

①【新規追加】最も重視する目的

サービスの質を評価するために、具体的な目標を記載いただくため、「自立支援」「心身機能の維持」「介護負担軽減」のどの項目を最も重視して目標を立てるか意識付けのために追加。いずれか一つを選択。

②福祉用具利用目標

令和2年度調査では、「安心して生活する」「安楽に過ごす」などの記載が見られたため、ガイドラインで示されている「【品目】を使って【生活場面】の【なんの動作】が【どの程度】【いつまでに】【可能になる】」を意識して目標設定いただくために、補足説明として追記。

図表 65 【試行運用版】ふくせんモニタリングシート（訪問確認書）
【現在の様式】

ふくせん モニタリングシート (訪問確認書)		管理番号 (/ 枚)	
フリガナ		モニタリング実施日 年 月 日	
利用者名		訪問実施日 年 月 日	
要介護度		訪問方法 <input type="checkbox"/> 訪問 <input type="checkbox"/> 電話	
認定期間		実施者氏名	
要介護度		確認者氏名	
福祉用具利用目標		目標達成状況	
利用目標(品目)	利用開始日	達成度	詳細
1		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 一部達成 <input type="checkbox"/> 未達成	
2		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 一部達成 <input type="checkbox"/> 未達成	
3		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 一部達成 <input type="checkbox"/> 未達成	
4		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 一部達成 <input type="checkbox"/> 未達成	
利用目標(品目) 確認(形式)		今後の方針	
①	利用開始日 達成度	今後の方針	再検討の理由等
②			
③			
④			
⑤			
⑥			
⑦			
⑧			
利用者の変化			
身体状況・ADLの悪化	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	介護状態の変化	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり
認知機能の悪化	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	介護状態の変化(精神・行動)	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり
福祉用具サービス計画の策定の必要性	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり		
訪問実施日 年 月 日			



【試行運用版改編案】

ふくせん モニタリングシート (訪問確認書)		管理番号 (/ 枚)	
フリガナ		モニタリング実施日 年 月 日	
利用者名		訪問実施日 年 月 日	
要介護度		訪問方法 <input type="checkbox"/> 訪問 <input type="checkbox"/> 電話	
認定期間		実施者氏名	
要介護度		確認者氏名	
福祉用具利用目標		目標達成状況	
利用目標(品目)	利用開始日	達成度	詳細
1		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 一部達成 <input type="checkbox"/> 未達成	
2		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 一部達成 <input type="checkbox"/> 未達成	
3		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 一部達成 <input type="checkbox"/> 未達成	
4		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 一部達成 <input type="checkbox"/> 未達成	
利用目標(品目) 確認(形式)		今後の方針	
①	利用開始日 達成度	今後の方針	再検討の理由等
②			
③			
④			
⑤			
⑥			
⑦			
⑧			
利用者の変化			
身体状況・ADLの悪化	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	介護状態の変化	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり
認知機能の悪化	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	介護状態の変化(精神・行動)	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり
福祉用具サービス計画の策定の必要性	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり		
訪問実施日 年 月 日			

ふくせん モニタリングシート (訪問確認書)		管理番号 (/ 枚)	
フリガナ		モニタリング実施日 年 月 日	
利用者名		訪問実施日 年 月 日	
要介護度		訪問方法 <input type="checkbox"/> 訪問 <input type="checkbox"/> 電話	
認定期間		実施者氏名	
要介護度		確認者氏名	
福祉用具利用目標		目標達成状況	
利用目標(品目)	利用開始日	達成度	詳細
1		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 一部達成 <input type="checkbox"/> 未達成	
2		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 一部達成 <input type="checkbox"/> 未達成	
3		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 一部達成 <input type="checkbox"/> 未達成	
4		<input type="checkbox"/> 達成 <input type="checkbox"/> 一部達成 <input type="checkbox"/> 未達成	
利用目標(品目) 確認(形式)		今後の方針	
①	利用開始日 達成度	今後の方針	再検討の理由等
②			
③			
④			
⑤			
⑥			
⑦			
⑧			
利用者の変化			
身体状況・ADLの悪化	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	介護状態の変化	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり
認知機能の悪化	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり	介護状態の変化(精神・行動)	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり
福祉用具サービス計画の策定の必要性	<input type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり		
訪問実施日 年 月 日			

【改編の主なポイント】

- ①【新規追加】具体的な利用状況、利用状況の変化
品目ごとに確認した利用状況と変化した項目について記録
- ②今後の方針
これまでは「継続・再検討」の2つの選択肢だったが、再検討の具体的な内容も選択できるよう「継続・中止・追加・変更・交換を検討」に見直し
- ③【新規追加】種目・品目変更の検討
②「今後の方針」を参考に、それぞれの利用目標に対して種目・品目の検討が必要か否かを明記。利用目標の達成状況を確認する介護支援専門員が多いことから、詳細確認が必要か否かをここで判断いただく。
- ④福祉用具サービスの総合評価
これまでは自由記述のみだったが、福祉用具専門相談員の記録業務の負担軽減、介護支援専門へわかりやすく情報共有するため、「福祉用具サービス」見直しの必要性・理由を選択肢で明示。
- ⑤【新規追加】福祉用具の利用状況（事故、ヒヤリ・ハットの確認）
これまで記録項目はなかったものの、福祉用具専門相談員として確認している事項であり、確認結果及び、福祉用具専門相談員としての対応内容を記録する項目を追加した。多職種連携にも有益な情報である
- ⑥【新規追加】福祉用具のモニタリング時のADL・前回モニタリングからの変化の有無
これまで記録項目はなかったものの、福祉用具専門相談員として、貸与中の福祉用具の利用に関わるADLについて確認している実態があり、身体状況・ADLの変化については、福祉用具の見直しの必要性も想定されるため、確認結果を記載する項目を追加、介護支援専門員へのアンケート調査からも、福祉用具専門相談員の視点での確認結果について要望もあり、多職種連携に有益な情報である
- ⑦【新規追加】他職種への福祉用具のモニタリング結果の報告・説明状況
多職種連携によるチームケアの促進に向けた情報発信ツールとしても活用が期待されることから、福祉用具専門相談員への意識付けも含め、他職種との連携実態についても記録する項目を追加

図表 66 【試行運用版】ふくせん計画プロセスシート

ふくせん 計画プロセスシート		管理番号	
		利用者氏名	
		電話番号	
		郵便番号	
ケアマネ・他職種との連携、担当者会議、支援経過等の情報			
年月日	対応者	内容	
		①	
福祉用具の利用と改善が期待できるADL			
【暫定の福祉用具種目・住宅改修】	【改善が期待できるADLの項目】	【改善が期待できるADLの評価（見込み）】	
福祉用具貸与 <input type="checkbox"/> 車いす <input type="checkbox"/> 車いす付属品 <input type="checkbox"/> 特殊寝台 <input type="checkbox"/> 特殊寝台付属品 <input type="checkbox"/> 床ずれ防止用具 <input type="checkbox"/> 体位変換器 <input type="checkbox"/> 手すり(口置き型 <input type="checkbox"/> 垂直式 <input type="checkbox"/> トイレ用) <input type="checkbox"/> スロープ(口固定式 <input type="checkbox"/> 携帯式) <input type="checkbox"/> 歩行器 <input type="checkbox"/> 歩行補助つえ <input type="checkbox"/> 認知症: ② <input type="checkbox"/> 移動用リフト <input type="checkbox"/> 自動排: 福祉用具販売 <input type="checkbox"/> 腰掛便座 <input type="checkbox"/> 入浴補助用具 <input type="checkbox"/> 簡易浴槽 <input type="checkbox"/> 移動用リフトの吊り具部分 <input type="checkbox"/> 自動排せ処理装置の交換可能部品 住宅改修 <input type="checkbox"/> 手すりの取り付け <input type="checkbox"/> 段差の解消 <input type="checkbox"/> 床材の変更 <input type="checkbox"/> 扉の取り換え <input type="checkbox"/> 便器の取り換え <input type="checkbox"/> その他付帯工事	<input type="checkbox"/> 寝返り <input type="checkbox"/> 起き上がり <input type="checkbox"/> 立ち上がり <input type="checkbox"/> 移乗 <input type="checkbox"/> ③ <input type="checkbox"/> 移動 <input type="checkbox"/> 排泄 <input type="checkbox"/> 入浴 <input type="checkbox"/> 食事 <input type="checkbox"/> 更衣	<input type="checkbox"/> つかまらな いでできる <input type="checkbox"/> つかまらな いでできる <input type="checkbox"/> つかまらな いでできる <input type="checkbox"/> つかまらな いでできる <input type="checkbox"/> つかまらな いでできる <input type="checkbox"/> つかまらな いでできる <input type="checkbox"/> つかまらな いでできる <input type="checkbox"/> つかまらな いでできる <input type="checkbox"/> つかまらな いでできる <input type="checkbox"/> つかまらな いでできる <input type="checkbox"/> つかまらな いでできる <input type="checkbox"/> つかまらな いでできる <input type="checkbox"/> つかまらな いでできる <input type="checkbox"/> つかまらな いでできる <input type="checkbox"/> つかまらな いでできる <input type="checkbox"/> つかまらな いでできる <input type="checkbox"/> つかまらな いでできる <input type="checkbox"/> つかまらな いでできる	<input type="checkbox"/> 同かにつかま ればできる <input type="checkbox"/> 同かにつかま ればできる <input type="checkbox"/> 同かにつかま ればできる <input type="checkbox"/> 同かにつかま ればできる <input type="checkbox"/> 同かにつかま ればできる <input type="checkbox"/> 同かにつかま ればできる <input type="checkbox"/> 同かにつかま ればできる <input type="checkbox"/> 同かにつかま ればできる <input type="checkbox"/> 同かにつかま ればできる <input type="checkbox"/> 同かにつかま ればできる <input type="checkbox"/> 同かにつかま ればできる <input type="checkbox"/> 同かにつかま ればできる <input type="checkbox"/> 同かにつかま ればできる <input type="checkbox"/> 同かにつかま ればできる <input type="checkbox"/> 同かにつかま ればできる <input type="checkbox"/> 同かにつかま ればできる <input type="checkbox"/> 同かにつかま ればできる <input type="checkbox"/> 同かにつかま ればできる
判断するにあたり参考となる情報を得た場面	<input type="checkbox"/> 担当者会議 <input type="checkbox"/> 単独訪問	<input type="checkbox"/> ケアマネとの同行訪問 <input type="checkbox"/> その他 ()	
住環境			
【家屋(居室を含む)見取図】		【屋内外・周辺環境で注意すべきポイント】	
⑤			

【作成の目的・記載内容】

目的：基本情報から得た情報を利用計画に落とし込む際のプロセスを記載するためのシートとして活用する。(検討プロセスの見える化)

記載内容：

①判断するにあたり参考となる情報を得た場面を記録

②暫定福祉用具種目・住宅改修の種目等を記録

③改善が期待できる ADL 項目

暫定福祉用具を利用することで、改善が期待できる ADL の項目を検討・記録

④改善が期待できる ADL の評価（見込み）

次の福祉用具のモニタリングまでにどの程度改善が見込めるかを、福祉用具専門相談員としての評価（見込み）を記録

⑤屋内、屋外または家屋の周辺環境について注意すべきポイントを記載

(3) 試行運用の実施

1) 実施目的

作業部会及び検討委員会にて議論いただいた、ふくせん福祉用具サービス計画書及びふくせんモニタリングシートの試行運用版を基に、実際に福祉用具貸与事業所において試行的に使用してもらい、記録項目の標準化を念頭に、項目の妥当性や活用にあたっての課題等を抽出し、ふくせん福祉用具サービス計画書等の見直しや、見直し後の各様式の効果的な活用に向けて必要な取組等の情報収集を目的として実施した。

2) 実施概要

① 実施対象

試行運用の実施：福祉用具貸与事業所 3か所

ヒアリング調査：試行運用を実施した福祉用具専門相談員及び、実施対象の福祉用具貸与事業所と連携がある介護支援専門員等
 福祉用具専門相談員 12名
 介護支援専門員等 5名

図表 67 試行運用実施対象の福祉用具貸与事業所・福祉用具専門相談員

事業所	福祉用具専門相談員の概要		
		経験年数	福祉用具専門相談員以外の保有資格
株式会社カクイック スウィング宮崎営業 所	a	4か月	・福祉住環境コーディネーター2級
	b	1年6か月	—
	c	6年8か月	—
	d	11年4か月	—
株式会社サンメディ カル	e	1年2か月	・介護福祉士
	f	1年10か月	・介護福祉士
	g	10年	・福祉用具選定士 ・介護職員初任者研修
	h	12年	・福祉用具選定士 ・福祉住環境コーディネーター2級
有限会社スマイルケ ア	i	7か月	・福祉住環境コーディネーター2級
	j	1年6か月	・柔道整復師 ・鍼灸師 ・福祉住環境コーディネーター2級
	k	10年	・福祉用具選定士 ・福祉住環境コーディネーター2級 ・福祉用具プランナー ・おむつフィッター ・車いす安全整備士
	l	10年	・福祉用具選定士 ・福祉用具プランナー

			・おむつフィッター2級
--	--	--	-------------

図表 68 ヒアリング調査対象の介護支援専門員等

事業所	介護支援専門員の概要		
		経験年数	連携している 福祉用具貸与事業所数
株式会社カクイックスウィング 宮崎居宅介護支援事業所	a	5年11か月	5事業所
あったかいごセンターモーモー (株式会社サンメディカルと連携)	b	15年	5事業所
気仙指定居宅介護支援事業所 (株式会社サンメディカルと連携)	c	12年	5事業所
京都市東九条地域包括支援センター (有限会社スマイルケアと連携)	d	10年	13～14事業所
	e	1年(社会福祉士)	

② 実施手順

- a 事務局よりふくせん福祉用具サービス計画書等の改編案一式を実施対象に送付
- b 各実施対象の福祉用具専門相談員が試行的に各様式を活用、記録作成
- c 上記 b 実施後、記録作成時の課題等についてヒアリング調査を実施

③ 実施時期

令和3年2月

3) 利用者選定・実施方法

試行運用での利用者選定及び実施方法のイメージを事務局より提示し、各福祉用具貸与事業所内で選択し実施した。

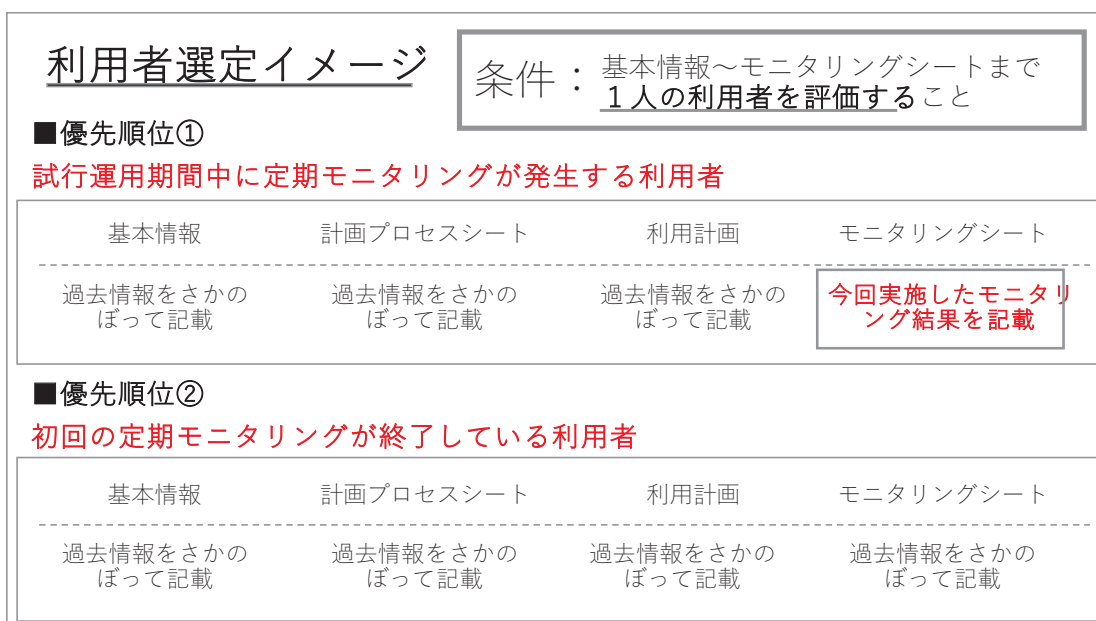
① 利用者選定イメージ (図表 69)

基本情報から福祉用具のモニタリングまで一人の利用者を評価することを条件に利用者を選定いただいた。また、試行運用期間中に福祉用具の定期モニタリングが発生する利用者を優先順位①とし、ふくせんモニタリングシートについては、試行運用期間中に実施したモニタリング結果を記載し、ふくせん福祉用具サービス計画書については過去の情報を遡って記載いただいた。①に該当する利用者が選定できない場合には、初回の福祉用具の定期モニタリングが終了している利用者について、過去の情報を遡ってふくせん福祉用具サービス計画書及びふくせんモニタリングシートを記載いただいた。

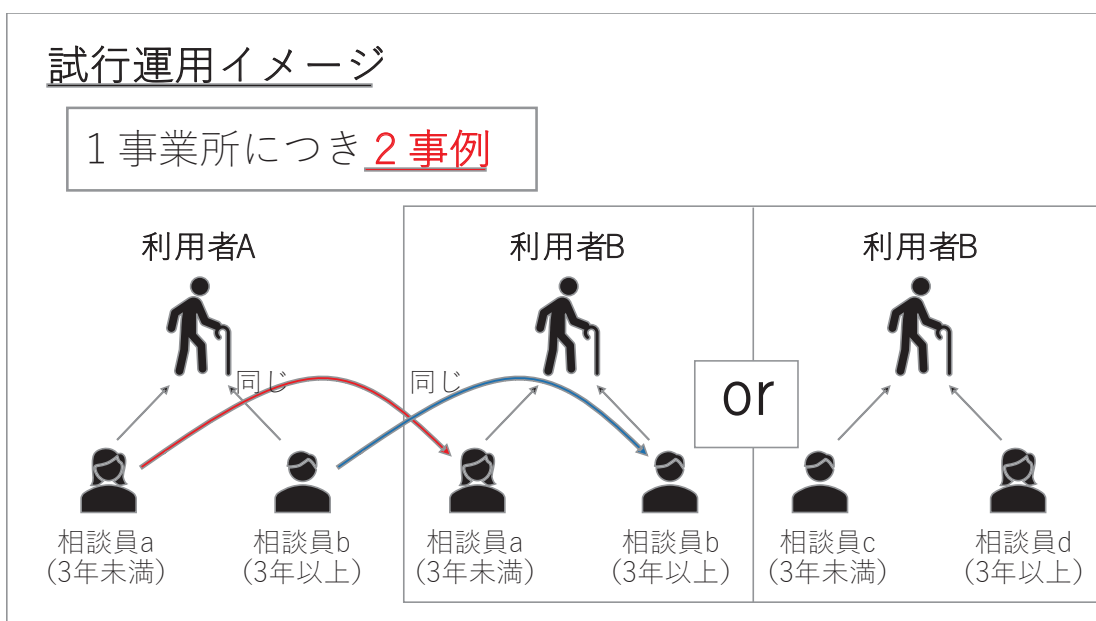
② 試行運用イメージ (図表 70)

1 事業所につき 2 事例の試行運用を行っていただいた。また、経験年数の違いにより記載のばらつきが生じる可能性を考慮し、経験年数 3 年未満の福祉用具専門相談員と、経験年数 3 年以上の福祉用具専門相談員に、同じ利用者について試行運用を実施いただいたが、2 事例とも同じ福祉用具専門相談員が実施するか、事例ごとに福祉用具専門相談員を変えるかは、事業所の判断に委ねた。

図表 69 利用者選定イメージ



図表 70 試行運用イメージ



4) ヒアリング調査の実施

① 実施概要

各福祉用具貸与事業所にて各様式を用いた試行運用実施後、記入済様式を事務局に返送いただき、それを基に各様式について具体的な問題点や改善案等の意見を収集した。

また、介護支援専門員にも各様式の試行運用版を確認いただき、福祉用具専門相談員に把握しておいてもらいたい事項や情報連携にあたり必要な項目・記録様式となっているか等、他職種連携を促進するための意見を収集した。主なヒアリング項目は以下のとおり。

図表 71 試行運用・主なヒアリング項目（福祉用具専門相談員）

調査対象	主なヒアリング項目
福祉用具専門相談員	1. 基本情報（経験年数、保有資格） 2. ふくせん 福祉用具サービス計画書（基本情報）試行運用版について 3. ふくせん 福祉用具サービス計画書（利用計画）試行運用版について 4. ふくせんモニタリングシート試行運用版について 5. ふくせん計画プロセスシート（新規追加）試行運用版について 6. その他 (1) 改編案を活用していくにあたり必要な取組等 (2) 項目の標準化及び他職種連携に向けた現場としての課題

図表 72 試行運用・主なヒアリング項目（介護支援専門員等）

調査対象	主なヒアリング項目
介護支援専門員等	1. 基本情報（経験年数、連携している福祉用具貸与事業所数等） 2. ふくせん 福祉用具サービス計画書（基本情報）試行運用版について 3. ふくせん 福祉用具サービス計画書（利用計画）試行運用版について 4. ふくせんモニタリングシート試行運用版について 5. その他 (1) 他職種連携に向けた現場としての課題等

② ヒアリング調査結果

各様式の改編案に対するヒアリング調査結果は以下のとおり。下線を記載している個所は、改編様式に反映した内容である。

a) ふくせんサービス計画書（基本情報）

記録項目、選択肢等に対する問題点や課題、ご意見等は以下のとおり。

項目	ご意見
意欲や意向	<ul style="list-style-type: none"> • <u>意欲や意向の項目が冒頭に移動しているが、通常は身体状況・ADLを先に確認するため、どちらを先に聞き取ればよいかわかりづらかった。</u>
疾病／禁忌・注意事項	<ul style="list-style-type: none"> • <u>疾病は身体状況・ADLと併せて確認するため、まとまっているほうがよい。</u> • 疾病は現在の様式にも含まれており、禁忌・注意事項は特記事項の欄に記入していたため、特に違和感はなかった。しかし、<u>慢性進行性、急性進行性のチェック項目は、複数疾病がある場合、どれに紐づくのかがわかりづらい。</u>本来は疾病を記入する際に福祉用具専門相談員が意識すべき事項であるため、基本情報には含めなくてもよいと考える。 • <u>慢性進行性、急性進行性については、判断が難しい</u>と考える。自身は看護師資格を所持しているため判断可能だが、医療関連以外の基礎資格を所持している介護支援専門員の場合は判断が難しく、福祉用具専門相談員も判断が難しいため、空欄が多くなるのではないかと考える。 • 疾病については、フェイスシートを見て記入した。<u>慢性進行性、急性進行性は調べながらでなければ判断しづらい</u>と感じた。 • 身体状況・ADLや意欲や意向は自身で確認できるが、関節可動域障害、高次脳機能障害、疾病に関する情報などは、介護支援専門員から提供される基本情報に記載がない場合もあるため、聞き取りの必要がある。 • 関節可動域障害、疾病などについては、介護支援専門員からの情報共有が必要であるが、フェイスシートなどには記載されていない場合もあるため、福祉用具専門相談員から聞き取りを行う必要がある。 • 介護支援専門員からの基本情報やフェイスシートから記入することが多い。動作などはフィッティングの際に確認している。 • 疾病の種類によっては、本人や家族から聞きづらい場合がある。認知症の有無についても、本人や家族がどこまで把握されているかわからない。そのため、介護支援専門員からの情報をもとに記載する機会がある。

	<p>多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 基本情報の様式は利用者や家族に直接手交するものなのかが分からず、禁忌・注意事項を書いてよいか迷った。禁忌については捉え方が利用者や家族によって異なると感じた。認知症の有無についても、言葉を選びながら聞く必要があると思った。 • 疾病や認知機能に関する情報は、介護支援専門員から共有する書面の中に含まれている情報である。
<p>身体状況・ADL</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 身長・体重は担当の福祉用具専門相談員から質問を受けて回答するケースが多く、通常介護支援専門員から提供する情報には含まれていない。 • すぐに納品いただく必要がある場合が多いため、利用者の名前や要介護度等の基本情報のみを共有しており、身体状況・ADLなどの詳細については共有していなかった。 • 納品時には床ずれができそうなためにエアマットが必要、歩行ができないために車いすが必要、という程度の情報共有を行い、サービス担当者会議の際に具体的に利用者の詳細について確認してもらうケースが多い。 • 障害日常生活自立度や認知症の日常生活自立度などの情報は、認識の通り、介護支援専門員から共有する情報に含まれている。 • 身長状況・ADLについては、利用者本人が実際に行っている動作や姿勢の詳細について問い合わせを受けて回答することがある。 • 障害日常生活自立度や認知症の有無、認知症の日常生活自立度等の情報は、福祉用具専門相談員に共有していない。ケアプランの更新の期間が長期化しており、更新までの間に利用者の状況にも変化があるため、主治医の意見書を共有すべきか、介護支援専門員の調査結果を共有すべきかなどを判断できない。必要に応じて電話等で情報共有を行うことはあるが、問合せがない限り共有していない。 • 問合せもあまりない。疾病や福祉用具専門相談員が関わるうえで気を付けて欲しい情報などは伝えているが、日常生活自立度のレベルの情報が福祉用具の選定に影響することはあまりないのではないかと。 • 身体状況・ADLは、認定調査項目に沿った順番になっていると介護支援専門員としても確認がしやすい。 • 認知症の有無や認知症の日常生活自立度などは基本情報に含まれている情報であるため、福祉用具専門相談員にも提供しているが、自身が選択した内容と福祉用具専門相談員が選択した内容が異なる場合がある。

- 特記事項や高次脳機能障害などの項目が追加されたことは、利用者の全体像の把握に有効であると思った。
- 疾病、関節可動域障害等の項目はデリケートな項目であるため、介護支援専門員との関係性によっては聞きづらい場合もある。
- 身体状況・ADL のチェック項目は、利用者のイメージがつきづらいと感じた。Barthel Index で点数化したほうが利用者のイメージもつきやすく、目標の達成度の評価にもつながると感じた。Barthel Index のほうが手間もかからず、根拠のある提案につながり、医療関係者などにも共通の指標として活用できるためよいのではないかと思った。
 - Barthel Index はわかりやすい指標ではあるが、専門的に勉強した方の評価でなければ、介護支援専門員としては素直に受け取りづらい。福祉用具専門相談員には、ご自身の領域の専門性を高めて情報共有をしていただいたほうが、今の段階で Barthel Index を導入するよりも有意義であると感じた。
- 介護支援専門員から提供いただいた場合は転記するが、項目が一致していない場合もあるため、訪問時に確認して補っている。利用している福祉用具と関連のない項目については、実際に行っていただくわけにはいかず、単刀直入に聞くのも失礼にあたるため、会話の中で確認していく場合が多い。
- 高次脳機能障害や障害日常生活自立度等については、自身では判断が難しいため、現在も空欄にしている場合が多い。
- 身体状況・ADL は、介護支援専門員から情報提供を受けた場合も、自身が確認した結果を記入するようにしている。障害日常生活自立度等の項目は、自身では判断が難しいため、特記事項や基本情報の様式以外に記入し、スケールでの評価はあまりしていない。
- 身体状況・ADL については、介護支援専門員等から提供された情報を転記することはほぼなく、自身で確認したものを記入している。
- 身体状況・ADL は聞き取りを行って作成するが、経験年数の浅い福祉用具専門相談員のためには、予め確認すべき項目が記載されている方が有難いと感じた。
- 通常は介護支援専門員からいただいた情報から記載している。利用者との親密に話す機会が少なく、情報収集が上手くできないこともある。
- 身体状況・ADL は介護支援専門員から提供された情報を転記し、足りない項目は、初回訪問時に注意深く観察して記入している。実際に動作を行ってもらい確認することは少ない。
- フェイスシートを参考に記入し、福祉用具専門相談員が実施するモニ

	<p>タリングによって過不足を補った。身体状況・ADL は変化もあるため再確認した。活動・参加は改めて聞き取りを行い確認した。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 当市では各区で情報提供のための様式が作成されているが、区によって障害日常生活自立度、認知症の日常生活自立度が含まれていない場合もある。また、介護支援専門員から提供される情報が最新の情報でない場合もあり、提供された情報から変化している場合もあるため、選択しづらい。
介護環境	<ul style="list-style-type: none"> • 同居家族がどの程度まで介護が可能なのかがわかれば、福祉用具の選定の際にも有効ではないか。 • <u>主介護者を明確にしておけば、担当者からの連絡が円滑にできる</u>と考える。 • 介護環境については介護支援専門員から提供いただけることもあるが、<u>キーパーソンは聞き取りが必要である</u>。 • 介護環境の他のサービス利用状況については、福祉用具との関連がわかるほうがよいと考える。 • 他のサービスに関連して、福祉用具を購入いただくことがあるが、その福祉用具についての情報を共有すべき担当者がわかるようになってくると使いやすいのではないかと考える。社内の情報共有のツールとしても使用しているため、追記できるようなスペースがあるとよい。
住環境	<ul style="list-style-type: none"> • これまでは基本情報しか共有していなかったが、アセスメントシートまで共有するとすれば、見取図も含めて住環境の情報を共有することは可能である。 • アセスメントシートに図面を記載する欄はあるが、ソフトで入力した場合であっても作成には時間を要するため、図面を記載しているケースは限られている。いままでは図面で共有するのではなく、必要になった際に福祉用具専門相談員と一緒に訪問してもらい、確認してもらうという手段をとっていた。 • 住環境は、住宅改修やベッド搬入の際などに必要な情報であり、選択式になったのは有難い。 • 住環境については、選択式になったことで作業効率が上がると感じた。
活動・参加	<ul style="list-style-type: none"> • 活動・参加は、解説に記載範囲などを示すとよいのではないかと考える。福祉用具専門相談員は、そもそも「<u>活動・参加</u>」が、福祉用具選定・利用目標とどう結びつくかわからないのではないかと印象を受けた。解説書を書くときに説明できるのであれば、入れてよいと思うが、意図がわからなかった。

	<ul style="list-style-type: none"> • <u>活動・参加の状況は、福祉用具専門相談員への意識づけを意図しているのであれば、外出はあってもよいと思うが、社会交流は福祉用具の選定への影響は小さいのではないかと。社会参加は定義が分かりづらいため、行き先などが具体的にわかったほうが、福祉用具の選定にも役立つのではないかと。</u> • <u>外出については、利用者の日常生活が把握できるため重要であると考え、社会交流や社会参加は福祉用具の選定には影響があまりないと感じる。</u> • <u>活動・参加の項目があるのは良いと思うが、外出の選択肢はここまで細かく分けなくてもよいのではないかと。認定調査票でも3つ程度であるため、より少なくてもよいのではないかと。</u> • <u>今回の利用者は歩行器を使用しており、ふらつきによる転倒のリスクもあるため、活動・参加の項目があつてよかったと感じた。項目があることで聞き取りにも活かせる。</u> • <u>活動・参加のうち、社会参加の定義づけが難しく、回数だけで評価できるかも疑問である。自由記述のほうが利用者に合ったサービス提供につながるのではないかと。外出もどこまでを含めるべきかが不明確であるため、経験年数によって選択する内容が異なる可能性がある。</u> • <u>活動・参加についても確認するよう意識はしているが、あえて項目が設けられていると、プライベートな部分に踏み込みすぎる可能性があり、聞き取りづらいのではないかと。</u> • <u>活動・参加については、どこまでが家族以外とするのか、ヘルパーと話すのも含まれるのか、など判断に迷った。</u> • <u>活動・参加については、項目だけを見ても意図がわかりづらい。項目を埋めることを目的に、福祉用具専門相談員が細かく質問することで、利用者が気分を害されないかが不安である。</u>
日常生活におけるリスク	<ul style="list-style-type: none"> • <u>「日常におけるリスク」は、ふくせんモニタリングシートと整合性を持たせることと、福祉用具専門相談員が把握できる範囲として「福祉用具」の利用に限定するほうが書けるだろう。福祉用具以外を聞いても、ヘルパーのように頻繁に訪問していないため難しい。</u> • <u>過去の事故、ヒヤリ・ハットの有無などは、アセスメントの際に介護支援専門員としても把握しており、特記事項として書くこともある。今回の様式では、期間が設定されていないため、どこまで含めるべきかがわかりづらい。福祉用具専門相談員が実施するモニタリングの頻度である3か月、6か月などで期間を区切ってもよいのではないかと。</u> • <u>過去の事故、ヒヤリ・ハットの有無は、利用者本人と他のサービス担</u>

	<p>当者で認識が異なる場合もある。今回の利用者の場合、本人はヒヤリ・ハットはないと言っていたが、訪問ヘルパーに聞くとあると言われた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活におけるリスクは訪問の度に聞き取りをしていた。今後福祉用具利用計画を立てるうえでも必要な情報であるため、記入欄があってもよいと感じた。 利用者への訪問時や点検時に確認するようにしていたが、記録には残していなかった。内部での情報共有には役立つと思う。 <u>福祉用具に関わることや課題に直結することは聞き取りをしているが、それ以上の内容を聞くことはない。</u>ヒヤリ・ハット報告の仕組みがあるため、ヒヤリ・ハットがあった場合にはこれまでも社内で共有していた。 <u>福祉用具を導入する以前のヒヤリ・ハットは、導入する際の相談内容と重複するため、福祉用具に限定したほうが良いと感じた。</u> <u>利用者本人や他職種など、立場によってヒヤリ・ハットの判断が異なるため、聞き取りをしてもどこまで把握できるかわからない。</u>福祉用具の利用に関連するヒヤリ・ハットのほうが聞き取りやすいだろう。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 認定調査票は取得する際に利用制限があるため、軽度者に対する福祉用具貸与例外給付を行う場合以外は共有していない。 全体的に項目が細かくなっているため介護支援専門員としても確認しやすくなったと感じる。一方で、福祉用具専門相談員が情報を収集するのが大変になるため、介護支援専門員からも必要な情報を提供していく必要があると感じた。 基本情報をもとに作成したが、実際に目で見ないとわからないという部分もあった。全てが基本情報から書けるかは疑問であり、合わせてアセスメントの必要性があると考えた。 介護支援専門員や他のサービス担当者への聞き取りも必要であると感じた。従来よりも時間はかかると思うが、ふくせん計画プロセスシートでしっかり確認できていれば、情報を反映できる。ふくせん計画プロセスシートのほうが重要であると感じた。今回は、基本情報の様式よりもふくせん計画プロセスシートを先に作成した。 フェイスシートやケアプランを参考に記入した。緊急連絡先などの項目があれば、基本情報の様式だけで全てが把握できるため、可能であれば追加いただきたい。 経験年数の浅い福祉用具専門相談員にとっては、ある程度項目が多い方が、確認すべき情報がわかりやすい。

	<ul style="list-style-type: none"> 当社の場合は、福祉用具サービス計画を記入するためのシステムの中に連絡先の記入欄が設けられているため、主介護者の連絡先記入欄は不要である。会社が使用しているシステムによって異なるだろう。個人的には、基本情報の様式に全ての情報が入っていると見づらいつ感じる。
--	---

b) ふくせんサービス計画書（利用計画）

記録項目、選択肢等に対する問題点や課題、ご意見等は以下のとおり。

項目	ご意見
生活全般の解決すべき課題・ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> 「生活全般の解決すべき課題・ニーズ」はケアプランから転記する想定か。ケアプランの短期目標の内容が記載されるのであれば、連動性がわかりやすく良いと思うが、これまで受領した利用計画では、福祉用具専門相談員が立てた課題・ニーズが記載されている場合が多かった。
福祉用具利用目標	<ul style="list-style-type: none"> 福祉用具利用目標の「【どの程度】【いつまでに】【可能になる】を明記する」については、<u>ケアプランと連動していれば問題ないが、ケアプランに記載されていない期間が記載されていると利用者に混乱を招くのではないかと感じた。他職種連携の観点からもケアプランに連動した内容や期間のほうがよいだろう。</u> 福祉用具利用計画を介護支援専門員が求める目的は、ケアプランとの連動性を高めるためであり、ケアプランを交付時に福祉用具貸与事業所から福祉用具利用計画を受領している。<u>ケアプランの短期目標の期間を記入する欄があれば見やすいのではないかと。</u> 福祉用具利用目標については、<u>期間に拘ることにどれほど意味があるかは、福祉用具の種目・品目によって異なる。</u>自立支援が達成できた場合も継続して必要な福祉用具と、不要になる福祉用具があり、高齢者の場合は継続して必要な場合も多い。<u>期間を設定しても、形骸化してしまうのではないかと。</u> 福祉用具利用目標の期間については、<u>福祉用具があることで安全に生活できており、継続して利用が必要な場合もあるため、検討が必要と</u>感じる。 福祉用具利用目標の文言は、わかりやすくよいと思った。<u>ケアプラン上で期間を設定しているため、それを反映して具体的に記載してもらえると、チーム内で認識が共有しやすいと感じた。</u>福祉用具専門相談員としても、自身で記載した福祉用具利用計画を見ればいつまでに

達成すべき目標かが認識できるためよいのではないか。

- 「なんの動作」は「何の動作」「どのような動作」のほうがよいのではないか。
- 介護保険そのものが自立支援を目的としたものであり、全ての前提に自立支援が含まれるため、自立支援は除外し、心身機能の維持と介護負担の軽減の2択にしたほうがよいのではないか。
- 福祉用具利用目標の期間は記入しづらかった。 今回の利用者の場合、元々歩行器を使用しなくても歩行は可能であるが、認知症もあり杖を使わず歩行してしまうために転倒の危険性があった。歩行器を使用すればすぐにでも問題なく歩行できるため、期間は省略した。期間以外の指定されている項目については、わかりやすくて良いと思った。
- これまでは頻度や期間を含まない漠然とした目標を記入しており、それに対して介護支援専門員からの指摘もなかった。利用者の方に対して、自身だけで目標を設定する自信がなかった。明確に記載するのは難しいと感じた。
- 期間はケアプランの目標によるが、【可能になる】の部分が書きづらい。利用者に向けての発信方法が難しい。利用者によっては、まだ何かできるようにしなければならないのか、と捉えられる可能性もある。
- 福祉用具利用目標の期間は今回初めて記入したが、自分で設定すべきかケアプランに合わせるべきかが悩みどころであった。 その他の項目については、新人でも記入しやすくなっていると思う。
- 利用目標の期間についても、できるようになる期間が明確にイメージできず、あえて記入しなかった。
- 福祉用具利用目標の期間については、記載しづらい場面があると感じた。介護支援専門員がどういう視点で期間を捉えているのかを知るべきと感じた。目標を達成するまでの期間ではなく、目標の見直しをする期間と捉えると、記入するハードルが低くなるのではないか。
 - 目標の見直しをする期間であれば、設定しやすいと感じる。
- 福祉用具利用目標は、維持期の利用者であったため、期間や頻度を記入することは難しかった。退院直後などの場合は記載しやすいが、利用期間が長い場合は記載しにくいこともあるのではないか。
- 期間を記入しても、その期間通りに評価を行うことができるかは疑問である。
- 福祉用具利用目標の期間は、担当している利用者数が多いため、設定した期間を把握しきれないのが不安である。

	<ul style="list-style-type: none"> • <u>福祉用具利用目標の期間については、ケアプランに合わせることを考えると、不要ではないか。</u> 利用者の状況によって設定するかを決めるとよいのではないか。 • 利用者に違和感なく受け止めていただける記載となっているかについては、相手がどう捉えるかが難しい場合もあると感じた。 • 介護支援専門員のヒアリングでも意見があったと思うが、<u>ケアプランにない目標期間を書く</u>と、<u>利用者の混乱を招く</u>と感じた。 • 使用している福祉用具や利用者の状態によって使い分けると良いのではないか。 • 病気から回復途中の利用者であれば、期間を設定しやすいと感じる。時と場合によるだろう。 • <u>期間については、介護支援専門員が短期目標・長期目標で示しているものであるため、福祉用具のみの期間の設定は不要と考える。</u> 一方で、目的は明確にしたほうがよいと考える。 • 福祉用具利用目標は、目的を明確に書けるため、よいと思った。経験年数が浅い福祉用具専門相談員の場合、依頼された福祉用具を持っていくだけになりがちだが、項目が明記されていることで、利用者にとどのようなことを聞き取るべきかを考えるツールになる。 • 生活全般の解決すべき課題・ニーズや福祉用具利用目標については、ケアプランの内容に沿って記入している。 • 福祉用具利用目標については、本来は福祉用具専門相談員が設定するのが望ましいが、ケアプランが後から手交されるとずれが生じる場合がある。そのため、当社ではケアプランに沿って転記する方針としている。福祉用具利用目標を指定されている項目に沿って記載するのは難しいと感じた。 • <u>また、福祉用具利用目標で具体的な項目を指定するのであれば、選定理由でも同様に指定するとよいのではないか。</u> • 福祉用具利用目標の頻度や期間は、福祉用具を使用しなければ元の状態に戻ってしまう場合には、記入することが難しいと感じる。また、<u>ケアプランの期間と整合性がとれていない場合にどのような問題が生じるかが判断できなかったため、期間は記入しなかった。</u>
最も重視する目的	<ul style="list-style-type: none"> • 全て重要であるため、介護支援専門員としてもどれか一つを選択するのは難しいと感じる。 • 最も重視する目的は、どれかを一つ選ぶのは難しいのではないか。一方で、全てに当てはまるのであれば項目を設ける必要はないだろう。 • 最も重視する目的については、今回試行運用で4名の福祉用具専門相

	<p>談員の方に作成いただいた様式を拝見したところ、2つ選択されている場合もあるため、「最も」とする必要はないのではないかと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 最も重視する目的については、複数選択可能なほうが良いと感じた。 • 最も重視する目的については、介護支援専門員の内村様からご意見があった通り、自立支援は大前提であるため、どれを選択すればよいのか迷った。 • 個人的には自立支援はあってもよいと考える。利用者の意識づけのために活用できるのではないか。 • 最も重視する目的についても、利用者によって選択しやすさが異なるだろう。 • 最も重視する目的については、今回の利用者の場合は迷わず判断できたが、寝たきりの利用者の場合は、心身機能の維持と介護負担の軽減など複数選択したくなってしまう。 • 最も重視する目的については、利用者によっては複数選択したくなる場合もあるだろう。また、自己判断になるため、正しく選択できているか不安であった。 • 最も重視する目的は、どれか一つを選択するのは非常に悩んだため、複数選択可能なほうがよい。 • 重視する目的についても、利用者にお渡しすることを考えるとつけづらと思った。 • 最も重視する目的は、個人的には不要である。心身機能の維持は自立支援と介護負担の軽減双方に紐づくものであり、経験年数が浅い福祉用具専門相談員にとっては、どれか一つを選ぶのは難しいだろう。意識づけを意図しているのであれば、説明書などに書いておくべきではないか。 • 最も重視する目的について、心身機能の維持は、何を根拠に選択すればよいかを悩んでしまうと感じた。 • 最も重視する目的は、一つだけ選ぶのは難しいと感じた。優先順位をつけるような記入方法のほうが記入しやすいのではないか。 • 最も重視する目的については、複数該当する場合もあるため、一つのみとする必要はないのではないか。
留意事項	<ul style="list-style-type: none"> • 留意事項に認定審査会での意見等が追記されていることについて、当市では現状記載されている場合は少ないが、記載があればチーム内での共有に役立つと考える。
その他	<ul style="list-style-type: none"> • 利用者にもお渡しするとのことだが、文字が小さくて見えない方が多

	<p>いだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 同じく文字の大きさは懸念である。 • 項目の過不足は感じていない。これまでより充実した福祉用具利用計画になっていると感じる。
--	--

c) ふくせんモニタリングシート(訪問確認書)

記録項目、選択肢等に対する問題点や課題、ご意見等は以下のとおり。

項目	ご意見
利用開始日	<ul style="list-style-type: none"> • <u>利用開始日について、経験年数の浅い福祉用具専門相談員の場合は月日のみの記載となっていたため、年月日を記載いただけるようにしたほうがよいのではないか。</u>
具体的な利用状況	<ul style="list-style-type: none"> • 福祉用具の具体的な利用状況が介護支援専門員としては欲しい情報である。介護支援専門員もモニタリング時に確認するが、聞き取りのみの場合も多く、例えば特殊寝台などの場合は毎月寝室を実際に見て確認することは難しい。福祉用具専門相談員から詳細が共有されると、自身の認識と異なる場合にも気づきが得られ、有難いと感じる。
利用状況の変化	<ul style="list-style-type: none"> • <u>様式の見方について、介護支援専門員に対して事前に詳しく説明があるわけではないと思う。そのため、利用状況の変化、変化の有無、具体的な利用状況という流れの方がわかりやすいと感じる。</u> • 特に違和感なく記入することができたが、<u>利用状況の変化の記入方法がわかりづらかった。</u>頻度が減った、使用方法が誤っていたという場合に、具体的な内容をどこに書けばよいか。 • <u>チェックをした後に、何が変わったかを書けるとよい。</u>利用状況の変化、具体的な利用状況、利用状況の評価結果の順番がわかりやすい。 • 利用状況の変化について、頻度がわかりづらかった。頻度以外の3項目にしてもよいのではないか。 • 利用状況の変化に何もチェックが入っていない場合は、どのような理由があるか。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ チェックの仕方があまりわからなかったため、つけなかった。 ➤ 変化がなかったためチェックをしなかった。” • 利用状況の変化は必ず何かをチェックしなければならないのかと思い、それに合わせて具体的な利用状況を記入した。変化がない場合はチェックしなくてよいということがもっと分かりやすいほうがよい。 • 利用状況の変化は、もう少しわかりやすい表現のほうがよい。 • 利用状況の変化が最も書きにくいと感じた。変化がなかった場合の選

	<p>択肢があったほうがよいのではないか。場所と安全性はどういった場合にチェックをつけるのが難しいと感じた。また、具体的な利用状況は一番右側にあるほうが書きやすいと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 利用状況の変化は、何を以て判断するのがわかりづらい。使用方法や場所は決まっているため変化することはあまり想定できない。頻度しか選択できないのではないか。また、具体的な利用状況は何を書くことを意図しているか。
<p>今後の方針</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 今後の方針が選択式にされていてわかりやすいと感じた。 • 今後の方針の選択肢のうちの「中止を検討」は、どのような場合に選択することを想定されているか。利用者が元気になったことにより解約するという場合が少ないため、違和感があった。
<p>目標達成状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> • いままで受け取っている報告では達成状況に関する記載はなかった。 • 目標達成状況などの項目は、メンテナンスに行っていただくこともあるため、参考にしている。訪問リハビリテーションと福祉用具貸与が同時に入っている利用者の場合は双方から情報提供があるため多くの情報がもらえるが、特に福祉用具貸与のみの利用者の場合は、詳細な情報を福祉用具専門相談員から得られるのは有難いと感じる。 • 種目・品目変更の検討については、種目・品目の変更が必要になった時が、利用者に変化があった時でもあるため、福祉用具専門相談員の専門的な視点で詳細を記載いただけるのは有難いと感じる。 • 使用している福祉用具が不要になる場合以外は、全て一部達成を選択しており、達成や未達成を選択する場合はほとんどない。達成はしているが継続して福祉用具の利用が必要な場合、達成としたうえで継続して貸与すると記入したほうが良いのか、一部達成としたほうがよいのか判断しづらい。 • 福祉用具専門相談員が立てる福祉用具利用目標は、例えば歩行器の場合は行動範囲が屋内から屋外に広がるというように、段階的に変えていくことが必要であると考えている。福祉用具が不要となるという意味だけでなく、次の目標に行くという意味で、達成したと評価することもできるが、そこまでの評価が必要なのか等について、介護支援専門員としてのご意見を伺いたい。 • 今回の場合は、一部達成と判断されていることに違和感はない。達成したら次の目標に変えなければならないというのは前提としてあるが、現状維持が目標である場合には、達成と判断した場合も、ケアプランの目標があまり変わらない。達成したからといって、必ず目標を変えなければならないとは個人的には考えていない。

<p>ケアプランの目標に対する福祉用具サービスの総合評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 介護支援専門員が行うべき仕事であると感じたが、わかりやすくよいと思った。 • いただけると非常に有難い。実地指導の際、行政の担当者から何を根拠にケアプランを継続・変更しているかと問われることがあるが、毎回サービス担当者会議を開催しているわけではないため、このような情報を根拠として提示できると有難い。変更の必要性について、介護支援専門員の視点と相違があったとしても、新たな気づきを得られるため有難いと感じる。 • <u>「福祉用具貸与サービスの利用継続の必要性や福祉用具サービス計画見直しについての意見」はタイトルが長すぎるため、「評価」としたほうがよいのではないか。介護支援専門員が支援経過記録に福祉用具専門相談員の意見を転記する際、タイトルが簡潔であったほうが転記しやすい。</u> • ケアプランの目標に対する福祉用具サービスの総合評価について、チェック項目が設けられているのは非常に有難いと感じる。コロナ禍でサービス担当者会議が開催できないため、照会文書により問合せをいただくが、「安全に使用していただいているため問題ない」といった漠然とした表現になってしまう。具体的なチェック項目があることでチーム連携に役立つと考える。 • ケアプランの目標に対する福祉用具サービスの総合評価は、見やすくなっていると思ったが、もう少し大きいほうがより見やすいのではないか。
<p>福祉用具の利用状況（事故、ヒヤリ・ハットの確認）</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 事故、ヒヤリ・ハットの確認についても、福祉用具専門相談員から見た利用者のご自宅の危険性や、新たな福祉用具の必要性などを提案いただけるのであれば、非常に参考になると考える。 • 事故、ヒヤリ・ハットの確認の自由記述欄には、記載している内容が事故、ヒヤリ・ハットのどちらなのかがわかるよう、チェックボックスをつけておいたほうがわかりやすいのではないか。 • 事故、ヒヤリ・ハットの確認は、聞き取りで記入できるため負担はない。聞く機会にもなるためあってもよいのではないか。 • 事故、ヒヤリ・ハットの確認については、基本情報の様式で確認したヒヤリ・ハットが福祉用具の導入によって無くなれば、評価につながるため、あってもよいだろう。しかし、<u>自由記述欄が大きすぎるため、経験年数の浅い福祉用具専門相談員にとってはプレッシャーになるのではないか。</u> • 事故、ヒヤリ・ハットの確認の項目があることで、確認漏れを防ぐこ

	<p>とができ、基本情報の様式からの変化も確認できるため、良いと思った。</p>
<p>福祉用具のモニタリング時の ADL・前回からの変化の有無</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 裏面の ADL 評価の必要性は、前後がわかることで状態がどうなったかわかることが狙いであるため、検討してほしい。 • いただけるのであれば有難いが、福祉用具専門相談員の方にとっては負担が大きいのではないかと感じる。モニタリングの期間が空いており、担当利用者数も多いため、前回からの変化を正確に評価できるかが課題と感じる。 • 身体状況・ADL はいただければ有難いが、この様式を見てもらった他の介護支援専門員からも、福祉用具専門相談員がここまで細かく確認する必要があるのかという意見があった。介護支援専門員の月 1 回のモニタリングに加えて、福祉用具専門相談員のモニタリングでもここまで細かく確認するとなると、利用者にとっても負担になるだろう。介護支援専門員が本来行うべきことであるという意見が多かった。 • 認定調査とほぼ同じ項目であるため、身体状況・ADL はほぼ全て重複している。必要性について疑問を感じる。 • 毎月のモニタリングで身体状況・ADL の全項目を確認しているわけではなく、各月で特に重要な点に着目して確認するケースが多い。全項目を確認するのはハードルが高いとは感じるが、記載いただけることは有難い。実際に他のサービス事業所では、身体状況・ADL の状況を報告してもらえ事業所もあるが、介護支援専門員のモニタリングの過不足を補ってもらえるため助かっている。 • ある程度経験のある福祉用具専門相談員であれば、訪問時に聞き取りや観察によって把握されていると思う。経験の浅い福祉用具専門相談員のための確認項目としてはあってもよいと思うが、負担が大きければ必須ではなくてもよいと考える。 • 毎回全ての項目を記載いただくのは負担であるため、必要のある項目のみ記載いただくことにするとよいのではないかと感じる。 • 身体状況・ADL の変化は、介護支援専門員が捉えている変化と福祉用具専門相談員が捉えている変化が合致しているか、介護支援専門員が把握していなかったことを把握していただけているかなどを確認しやすい。気になる点を直接確認することにもつながりやすい。 • 身体状況・ADL の変化の有無については、前回とは別の担当者が福祉用具のモニタリングを実施した場合、変化の有無の判断が難しいと感じた。前回の資料などを持っていく必要がある。その他の部分は比較的記入しやすかった。

	<ul style="list-style-type: none"> • 身体状況・ADL の変化については、<u>関節可動域障害等の項目はどのようにチェックすればよいかを迷った。</u> • 福祉用具専門相談員が実施するモニタリングで従来実施している内容と大きな違いはないが、記入するとなると時間がかかる。身体状況・ADL の変化は、変化の有無のみ記入し、具体的な変化の状況は特記事項に書くだけでもよいのではないか。 • 担当者が訪問できない場合は、営業サポートの職員に訪問してもらおう。コロナ禍のため、電話で確認し、異常のある場合のみ訪問している。担当者が異なると身体状況・ADL の変化については判断が変わってくるかもしれないと感じた。 • 身体状況・ADL の変化は、正確に書くには実際に動作を行っていただく必要があるため、利用者にも負担がかかると感じる。 • 身体状況・ADL の変化は、毎回全ての項目を確認するのは利用者にとっても負担であり、不快に思われる方もいるかもしれないと感じた。あくまで福祉用具専門相談員が実施するモニタリングであるため、福祉用具の利用状況について特記事項が発生した場合のみ記入すればよいのではないかと思った。 • 身体状況・ADL の変化は、様々な用具を使用している利用者の場合には、毎回全ての項目を確認するのは利用者にも負担がかかってしまうだろう。<u>関節可動域などの情報は専門的な情報であるため、福祉用具専門相談員が正しく判断するのは難しいかもしれない。</u> • 身体状況・ADL の変化については、必要な項目のみチェックしたことがわかるような確認ボックスを設けてほしい。 • 身体状況・ADL の変化は、特に問題点はないが、全て確認しなければならないのかと思う。変化ありの場合だけ詳細にチェックをつけることができるかよいのではないか。 • 経験年数の浅い福祉用具専門相談員は、全てを確認しようとして利用者が必要以上に質問してしまうだろう。介護支援専門員が実施するモニタリングと日程が近い場合には、利用者にとっても負担となる。確認する項目を限定できるようにしたい。 • 変化の有無を最初に選択し、その後、改善・悪化を選択したうえで、具体的な状態がわかるようにしたほうがよいだろう。 • 身体状況・ADL の変化は必要であると思うが、前回の結果が転記されていれば、確認しやすいと感じる。
特記事項	<ul style="list-style-type: none"> • 特記事項についても、各項目のチェックボックスを追加すると、漏れなく記載しやすいのではないか。

	<ul style="list-style-type: none"> • 特記事項は、今回は何点か項目を絞って記載したが、統一する必要があるのではないかと感じた。 • 介護支援専門員が判断しやすいため、自由記述の記入欄が大きく設けられているのは有難い。 • 特記事項は項目ごとに記入欄を分けていただいたほうがわかりやすいが、全て記入する必要はないということがわかるようにしてほしい。 • 表面の「福祉用具貸与サービスの利用継続の必要性や「福祉用具サービス計画」見直しについての意見」と、裏面の「特記事項」は、記述する内容が一部重複する。介護支援専門員にお渡しするため失礼にあたるのではないかと、競合他社はずっと書いているのではないかなどと考えて、無理に記入欄を埋めることで、かえって伝えるべき事項がわかりづらくなる可能性がある。また、業務負担が増えた結果、利用者に向き合う時間が削られることを危惧している。最後の特記事項の部分は、重複しないようもう少し限定していただいたほうが良い。 • 特記事項は、項目ごとに記入欄を区切ったほうが書きやすいのではないかと。
作成の負担について	<ul style="list-style-type: none"> • ふくせんモニタリングシートでより深堀できるのはよいと思うが、以前より負担はかかってしまう。福祉用具のモニタリングの専任者がいる場合もあれば、他の業務と兼任している場合もあるため、他の業務とのバランスがとれるか不安である。 • これまでは、聞き取りまで含めて 30 分を目標に福祉用具のモニタリングを実施していた。ふくせんモニタリングシートは、タブレットでも入力できるが、帰社してから PC で入力するケースが多い。今回の新しいふくせんモニタリングシートの作成にあたっては、訪問時にプラス 10 分、戻ってきてからプラス 10 分程度で収められるとよいと考えている。 • 慣れないのも影響していると思うが、2 ページに増えているため、記入には時間が必要であった。月に 20~30 件実施するとなると大変だと感じる。 • 現在の様式と比べると時間はかかったが、見やすくなっているため、介護支援専門員などに参考にしていただけるのではないかと感じた。 • ふくせんモニタリングシートの記入にあたって、訪問時の所要時間と入力時の所要時間を教えてほしい。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 利用している福祉用具の種類や数にもよるが、訪問時には 10 分以上多くかかるのではないかと。入力時の時間も、慣れれば早くなると思うが、10 分程度多く時間が必要であると考えている。

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 訪問時に15～20分、入力時に10～15分程度多くかかると感じた。 ➤ 入力には以前の3倍程度の時間が必要であり、10～15分程度かかる。訪問時には、会話をしながら確認しなければならないため、30分以上必要なのではないかと。 ➤ 訪問時には30～45分程度必要であり、入力には20分程度必要であると思う。 ➤ 当県は広いため移動時間も利用者一人あたり1時間かかるため、相当な業務負担になる。 <ul style="list-style-type: none"> • 今回は訪問時に確認する時間も通常より遥かに多くかかったが、全てを聞き取っているわけではなく目視で確認する項目も多いため、慣れれば1.3～1.4倍程度になるのではないかと。
<p>福祉用具のモニタリングシートの交付義務化について</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 福祉用具のモニタリングシートの内容をケアプランに反映させるには、介護支援専門員がケアプランを作成する前に福祉用具のモニタリングシートを受領する必要があるが、サービス担当者会議が開催される月に各サービス事業者が同時に見直しを行うため、福祉用具のモニタリングシートを受領するのは、ケアプラン発行後になる場合が多いと考える。3か月ごとに必ず報告いただけるのであれば反映することも可能だが、そこまでの労力をかけるのであれば、3か月ごとに別の様式を作成するのではなく、1年間の経過がよりわかりやすい様式のほうがよいと考える。 • 現在はコロナ禍でサービス担当者会議の開催が難しく、照会を行う場合が多い。照会時に福祉用具貸与事業所の場合は簡潔な文章で回答される場合が多いため、福祉用具のモニタリングシートもお送りいただくと確認が容易である。また、福祉用具専門相談員から介護支援専門員に情報を共有する際にも、福祉用具のモニタリングシートがあったほうが漏れなく情報を共有できるのではないかと。過去を遡って比較することも可能なため、福祉用具のモニタリングシートを共有いただくと非常に有難い。 • 福祉用具利用計画はケアプラン交付時にももらえれば有難く、福祉用具のモニタリングシートもできればもらえるとよいと思う。義務ではないが、現在も各サービス事業所からの福祉用具のモニタリング報告を月に1回程度実績報告とともに受け取る場合が多い。各サービス事業所から利用者の達成状況ももらえることで、ケアプランの継続・変更を判断する際の根拠として活用できる。 • 福祉用具のモニタリングシートもいただくと有難いが、義務ではなくてよいと考える。それよりも介護支援専門員との連絡を密にとるこ

	とや、積極的に訪問して利用者の様子を確認してくれることのほうが有難いと感じる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> • 項目の過不足は特に感じず、見やすく整理されていると感じた。 • 基本情報の様式でも申し上げたが、事故、ヒヤリ・ハットの確認は、聞く相手によって認識が異なる場合がある。 • 福祉用具利用目標と目標達成状況が中段にあることに違和感がある。福祉用具利用目標を達成するために個別の福祉用具の状況を確認するため、福祉用具利用目標が上にあったほうがよい。 • 個別の福祉用具の利用状況と目標達成状況の記入順が入れ替わったのはどのように感じたか。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 順番の差異によるやりやすさ、やりにくさは特に感じなかった。 ➤ 個別の福祉用具の利用状況を確認した後に総合的な目標達成状況を評価してほしいという意図だと認識しており、意図された通りの順番で妥当であると考えている。

d) ふくせん計画プロセスシート

記録項目、選択肢等に対する問題点や課題、ご意見等は以下のとおり。

項目	ご意見
ケアマネ・他職種との連携、担当者会議、支援経過等の情報	<ul style="list-style-type: none"> • ケアマネ・他職種との連携、担当者会議、支援経過等の情報は、どこまで書けばよいか分かりづらかった。全て書くとすると行数が足りないと感じた。 • ケアマネ・他職種との連携、担当者会議、支援経過等の情報は、どこまで書けばよいのかわかりづらかった。 • これまでは過去の経緯がわかりづらかったが、ふくせん計画プロセスシートを活用することで過去の振り返りもできるためよいと思った。 • ケアマネ・他職種との連携、担当者会議、支援経過等の情報は、これまでの流れがわかりやすい。 • ケアマネ・他職種との連携、担当者会議、支援経過等の情報については、これまでは自分でメモを取っていたため、改めて記入するとなると時間がかかると感じた。 • これまではメモを取り、不要になったらシュレッダーをかけていた。自分が把握できていれば不要だと思う一方で、引継ぎなどの際には役立つため、あってもよいのではないかと思った。 • 現在までの流れがわかる良い様式であると思ったが、ケアマネ・他職種との連携、担当者会議、支援経過等の情報については、通常メモを

	<p>取って不要になったら処分する機会が多いため、今回は全ての情報を記載できなかった。担当者変更の場合には役立つのではないかと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ケアマネ・他職種との連携、担当者会議、支援経過等の情報は、引継ぎが容易になるためよいと思う。 ケアマネ・他職種との連携、担当者会議、支援経過等の情報は、担当者の引継ぎに活用する場合は、記入欄を多くする必要があると感じた。ケアマネ・他職種との連携、担当者会議、支援経過等の情報だけを別の1枚の様式とすることを検討してもよいのではないかと考えたが、いかがか。 詳しく書けるのはよいと思う。福祉用具利用計画も更新されるため、照らし合わせながら活用するとわかりやすいと感じた。 なぜこの日に福祉用具を変更したかを記入できていれば、引継ぎの際に役立つ。もう1枚シートが増えたとしても必要であると感じた。 ケアマネ・他職種との連携、担当者会議、支援経過等の情報については、どこまで記入すべきかがわかりづらかった。
福祉用具の利用と改善が期待できる ADL	<ul style="list-style-type: none"> 福祉用具の利用と改善が期待できる ADL についても、わかりやすくチェックボックスになっており、可視化できるため共有いただけると有難い。 福祉用具の利用と改善が期待できる ADL については、福祉用具専門相談員として必要と考えられるものを記入すべきなのか、介護支援専門員と相談し、導入する福祉用具がある程度明確になった段階で記入すべきなのかがわからなかった。また、プロセスを考える際には、ある程度自由記載があるほうがよいと感じた。 福祉用具の利用と改善が期待できる ADL については、導入した結果を記載する部分がないため、評価をする場所がないのであれば、過程を記載する意図がわからなかった。 QOL や ADL などに関する記入欄が別途設けられていれば、利用者本人の希望がどの程度叶えられているかがわかりやすいのではないかと。現状の項目では、何をかなえられているのかが細分化しづらい。また、動作に関しても、無理をしていたことが負担なくできるようになったのか、全くできなかったことができるようになったのかといった評価が、現状の項目では記入しづらいと感じた。 改善が期待できるもののみを記載すると、改善は期待できないが必要な福祉用具の存在価値を記載できなくなるため、2軸で記載できるようにするとよいのではないかと。 暫定の福祉用具種目・住宅改修については、福祉用具貸与以外の福祉

	<p>用具販売、住宅改修のみの利用者の場合でも活用するとよいのではないかと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 福祉用具の利用と改善が期待できる ADL は、記載しやすいと感じた。 • 福祉用具の利用と改善が期待できる ADL も、担当者以外の福祉用具専門相談員であっても利用者の状態がイメージしやすい。 • 例えば歩行器だけの依頼であれば、ふくせん計画プロセスシートに記入するほどの変化がない場合もあると考える。
住環境	<ul style="list-style-type: none"> • ふくせん計画プロセスシートは、ほとんどの項目が介護支援専門員のアセスメントの項目と重複しているが、介護予防支援の利用者の場合は見取図が含まれていないため、基本情報の様式に見取図が含まれているほうがよいと感じた。介護支援専門員が把握しづらい情報を、専門的な視点から把握し、早い段階で共有してもらえるのは有難い。一方で、様式の種類が多いため、福祉用具専門相談員の業務負担を懸念している。業務負担が増えた結果、書面だけの情報共有となり、口頭での連絡が少なくならないかが心配である。 • 介護支援専門員も住宅改修が入らない限り把握しづらいため、家屋の見取図があるのは有難い。見取図があることで福祉用具専門相談員と介護支援専門員との間で検討もしやすい。 • <u>住環境は、施設に入居している利用者もいるため、どこまで書けばよいのかがわかりづらかった。</u> • <u>屋外で使用する福祉用具の場合は、屋内を見せてもらうのはハードルが高いと感じる。</u> • 住環境については記入するハードルは高いが、必要なことであるのにこれまで確認できていなかったのかとも感じた。住環境を確認することで利用者にもう一步踏み込んだ提案ができるのではないかと感じた。 • 家屋の見取図は、記載するタイミングがわかりづらかった。 • <u>屋外で歩行器を使用する場合であっても、家屋周辺の動線は書けるため、そのような使い方でもよいのではないか。</u> • <u>見取図は全て書くのか、動線のみでよいかがわかりづらかった。</u> • <u>住環境の家屋の見取図は、時間がかかるため記入するのは難しいと感じた。</u> これまでは、<u>框など必要な部分のみ計測してメモを取っていた。</u> • 見取図はソフトがあればより容易に作成できると思った。 • 今回は、住宅改修を行っていない利用者であった。住宅全ては確認しない。寝室、居室、トイレ、浴室などを主に確認する。

- 訪問を重ねるごとに次第に詳しい間取りも分かってくると思うが、最初は動線部分のみのほうがよいだろう。
- 家屋の見取図は、まずは動線部分を確認し、必要に応じて更新していけばよいのではないか。
- 住宅改修の依頼があれば確認できるが、歩行器を外で使用する場合などは自宅内に入れない場合もある。
- 例えばベッドを貸与する場合、寝たきりの場合以外は動線確認をするため、その場で図面を書くことは可能であるが、抵抗感を示す利用者もいる。新たな課題・ニーズを収集するためには記載したほうがよいが、経験年数等によっては難しい。ベッドの置き方などを納品担当者と情報共有する場合には、見取図があると共有しやすく、介護支援専門員に共有することも有意義であると考え。見取図を項目として含めるのであれば、ふくせん計画プロセスシートではなく、ふくせん福祉用具サービス計画書に含めたほうがよいだろう。
- 家屋の見取図については、利用者との関係が構築できていない初回訪問時に記入するのは難しいと感じた。項目があると埋めなければならぬと感じる。
- 家屋の見取図については、新規の利用者の場合では記入するのは難しいだろう。手書きで書くことを想定するのであれば、方眼のマス目程度はあったほうがよいのではないか。
- 抵抗感を示す利用者もいるため、自宅内を確認することが難しいのも事実である。当社では初回訪問の際に玄関框などを計測するシートを用意しているが、それも記入できない場合もある。
- 自宅内を確認しづらいと感じることは多い。必要になった段階で動線上の図面を記載して共有することはしているが、自宅全域となるとハードルが高いと感じる。
- 家屋の見取図を必要に応じて記載するとした場合には、ほとんどの職員が記入しないだろう。それならば項目そのものが不要ではないか。管理者側としては、必須とするか、不要とするかのどちらかになると考える。
- 搬入の際には、基本情報に含まれている情報のみで特に問題ない。当社では、現状の基本情報の様式にある住環境の備考欄を記入している福祉用具専門相談員はほとんどいないため、それ以上にハードルが高い見取図は記入できないだろう。
- 福祉用具の利用に関連する部分に限定した見取図のほうがよいか。
 - 限定されたほうが記載しやすいと思うが、どこにどのような福

	<p>祉用具を設置したのかを図面で共有する必要性があまりない。福祉用具利用計画の中に文章で書いてあれば十分と感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • <u>家屋の見取図は、新規の利用者の場合は作成することが難しいだろう。</u>住宅改修の相談があった場合に記入することでもよいのではないか。
<p>作成の負担について</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 様式が追加されることに対して、正直負担を感じる思いもあったが、担当者が訪問できず、他の福祉用具専門相談員に訪問してもらう場合の情報共有にも活用できると感じた。新人でも見るべき視点や営業が必要としている情報がわかりやすく、やりとりがしやすくなる。ふくせん計画プロセスシートを書くことで福祉用具利用計画なども書きやすくなるのではないか。 • 作成に手間はかかるが、社内の口頭での情報共有の手間が削減されることを考えると、逆に仕事の効率が上がると感じている。新規の利用者に対しても実際にふくせん計画プロセスシートを作成してみたが、図面の作成を含めて約 20 分程度であった。 • ふくせん計画プロセスシートは情報共有等の際に便利であると感じている。ケアマネ・他職種との連携、担当者会議、支援経過等の情報はその都度記載する必要はあるが、家屋の見取図は 10 分程度、福祉用具の利用と改善が期待できる ADL も 5 分程度で記入できた。 • 家屋の見取図が最も苦勞した点で、時間もかかった。ふくせん計画プロセスシートの作成には、30 分程度かかった。 • 家屋の見取図は、専用のアプリを使い、10～20 分程度で作成した。その他の項目については、初回であったため 20 分程度かかったが、慣れば 10 分程度で記入できると思う。合わせて 30 分程度で記入できるのではないか。 • 福祉用具の利用と改善が期待できる ADL の作成には、どの程度負荷がかかったか。見取図を除くとすると、ふくせん計画プロセスシートの作成には、どの程度の時間が必要か。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ 福祉用具の利用と改善が期待できる ADL は、選択式であるため、情報が揃っていればさほど負担はない。全体を通しては、10 分程度で作成できるのではないか。 ➢ 住環境を必要な部分のみ記載するのであれば、20 分程度ではないか。 ➢ 見取図がなければ、5～10 分程度で作成できるのではないか。 ➢ 情報収集さえしっかりしていれば、5～10 分程度で入力できるだろう。

	<ul style="list-style-type: none"> 家屋の見取図も含めてどの程度時間がかかったか。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 今回は2～3分で記入でき、負担はなかったが、新規の利用者か既存の利用者かによって異なる。新規の利用者の場合は、訪問時の時間も10分程度は必要だろう。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 項目があればできる限り記入しようと思ってしまう。また、ふくせん福祉用具サービス計画書は、実施している業務内容を行政に伝えるためにも活用しているため、空欄が多いことで、必要な業務ができていないと見做されるリスクがあるのではないかと感じた。あえて記入していることがわかるような表現があればよいと感じる。 利用者が利用している他のサービスの今後の予定などを書く欄があれば、連携の際に活かせると感じた。 福祉用具の選定を行う担当者としては、自身の見落としを減らすために活用できるだけでなく、見るべき視点が明確になるため、新人教育の一環としても活用できるのではないかと感じた。介護支援専門員との連携ツールとしても活用できる。 介護支援専門員としてもふくせん計画プロセスシートへの情報は必要であると思う。福祉用具の利用と改善が期待できるADLなどの情報を記載することで、利用者の生活を豊かにするような将来的な提案が生まれるとよいと感じた。 結論としては不要であると感じた。ふくせん計画プロセスシートを作成するのは福祉用具利用計画を作成する前の段階か。今回は、既に納品している利用者のニーズ・課題変化があり、商品交換が必要な場合に記入するものと認識して使用したが、不要と感じた。既存の基本情報の様式に手書きで書き込めばよい。あえてふくせん計画プロセスシートを記入することで、業務負担が大きくなってしまう。 ふくせん計画プロセスシートの意義に対して少し懐疑的に思っている。

e) その他

項目	ご意見
他職種連携に向けた現場としての課題	<ul style="list-style-type: none"> 多くの事業所から細かい情報をいただく場合、それをどのように他のサービス事業所に共有するかが、介護支援専門員としての課題である。全員で同じ情報を見ることができればよいが、事業所ごとに別のソフトを使用しているため難しい。 多くの事業所を使用しているため、連携に苦労している。紙でのやり

	<p>取りもお互いに労力がかかっている。手間をかけずにどう情報共有をしていくかが課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 個人的な見解だが、福祉用具専門相談員の方は遠慮がちで、サービス担当者会議でもあまり発言されない方が多い。福祉用具専門相談員の力をどのように示していくかが重要である。福祉用具そのものには事業者間での差異はあまりないため、福祉用具専門相談員の提案力、説明力などが必要であると感じる。住宅改修などはトラブルが発生しやすく、福祉用具専門相談員の対応力が求められる。福祉用具専門相談員にも、他の事業所と対等に関わっていただきたいと感じる。 • 自身からも利用者に最低限の説明は行うが、経験年数が浅いため、利用者との認識の齟齬がないよう、福祉用具専門相談員から利用者に対して再度詳しく説明いただくことでトラブルの防止にもつながると考える。利用者への説明や利用者にあった提案などをしていただきたいと思っている。 • 介護支援専門員から問い合わせをしなければ情報をいただけない福祉用具貸与事業所や福祉用具専門相談員も存在する。欲しい情報が漏れなく全て入っていると細かいところまで確認する必要がないため、介護支援専門員としては、そのような様式を使用している事業所を選びたいと思う。事業所の差別化にもつながるのではないかと。サービス担当者会議に福祉用具貸与事業所だけ声がかからず、結果だけが報告される場合も多くあると聞いているため、必要な情報を提供できる事業所が今後選ばれていくとよいと考える。 • 今回の様式には、必要な情報は漏れなく入っていると思う。しかし、一人あたり 100 人以上の利用者を担当している福祉用具専門相談員がここまで詳細な情報を得るのは難しいため、介護支援専門員と上手く連携して必要な情報を共有していく必要があると感じた。
<p>改編様式を活用していくにあたり必要な取組等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 現在の業務に加えてやるべきことが増えることに対する不安が大きい。 • 改編様式を活用していくにあたり必要な取組等としては、書面だけでは人によって解釈が異なるため、周知のための研修会などが必要であると感じる。 • 細かな項目まで記入でき、他職種への連携の際には容易に情報共有ができる様式になっていると思うが、その分業務負担も増える。より業務負担を減らせるようにしていただきたい。 • 身体状況・ADL や住環境の確認などは、経験年数が浅い福祉用具専門相談員にとっては、確認すべき点や、利用者に関心すべき点がわからな

	<p>いこともある。正しくチェックするために、どのようなところを見たらよいかかわかれば、記入しやすいと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> • システム会社にいかに理解してもらい、改編様式を入れてもらうかが重要だろう。前回の福祉用具のモニタリング時の ADL の結果などは自動的に反映されれば負担が減る。また、介護支援専門員にとっても事業所ごとに大きく様式が異なると確認に負担がかかる。なるべくわかりやすくしなければ、提出するためだけの書面になってしまい、福祉用具専門相談員としての専門性が発揮できず、利用者にも質の高いサービスが提供できなくなる可能性がある。システム会社といかに連携していくかが重要である。 • ヒアリングを踏まえて、経験年数のある福祉用具専門相談員と経験年数の浅い福祉用具専門相談員の理解度が異なると感じた。何を目的にどのような結果が必要なのかが明示されていると、作業がしやすいと感じる。 • 概要だけでなく、細かい部分の共通化を図りたい。例えばふくせんモニタリングシートのメンテナンス結果について、ブレーキ調整をした場合、「問題あり」と記入したうえで調整を行うのか、調整を行えば「問題なし」と記入してよいのかなど、判断が難しい場合がある。また、事務負担が大きくなりすぎた結果、利用者を訪問する時間が少なくなると本末転倒であるため、考慮いただきたい。 • 事務負担が増えるため、自由記述欄を少なくしてチェック欄を増やしていただきたい。 • 自由記述よりチェック欄が多いと時間短縮につながる。 • 自由記述をもう少し改善していただけると作業効率も上がると感じた。現場としては、より詳しく書きたいという思いがある一方で、記述では時間がかかるため、よりよい方法がないかと思う。 • 手書きで記入するか、PCで入力するかにもよるが、チェック式ではなく、プルダウンなどの選択式にすると見やすいのではないかと。
<p>項目の標準化及び他職種連携に向けた現場としての課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 介護支援専門員との連携ツールとして活用しているため、より分かりやすいものになればよいと思う。利用者のデータがクラウド上で確認できるようになれば、連携が容易で、負担軽減にもつながると感じた。 • 項目の標準化及び他職種連携に向けた現場としての課題等としては、書面だけでは難しい場合もあるため、電話や Zoom など、福祉用具の必要性や福祉用具専門相談員の熱量を感じられる手段を活用することが必要であると感じた。

	<ul style="list-style-type: none"> • 他のサービス事業者に比べて、利用者にお会いできる機会が少ないため、連携している事業者の中で、福祉用具専門相談員としての存在感を示すためにはどうしたらよいかと考えていた。サービス担当者会議でも、自分の気づきなど、変化のある発言をしなければ、同業他社との差別化もできない。知識の習得も勿論だが、対応力も学んでいかなければならないと思った。 • 介護支援専門員も福祉用具専門相談員も外出していることが多いため、電話がなかなかつながらない。チャットワーク等での情報共有をしていきたい。国がプラットフォームを作るなどの支援があれば有難い。また、福祉用具専門相談員としての専門性を発揮できるよう、業界全体で自己研鑽をしていかなければならない。 • 福祉用具専門相談員のコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を高めていくような研修会等も開催していかなければならないと感じた。ADLの確認が介護支援専門員と重複してしまうとのご懸念があったが、介護支援専門員から最新のADLを事前に共有してもらうなどの連携を行えば、時間の無駄を省け、利用者に重複して聞くことも防げるのではないか。 • 各サービス事業者がどのようなサービスを行っているかは各々が勉強すべきことではあるが、他のサービスの利用の際に関連する福祉用具が可視化されると連携が取りやすいと感じた。どのサービスがどこに注力されているかがわかりやすい様式になるとよいと考える。 • 介護支援専門員にお渡ししたふくせん福祉用具サービス計画書やふくせんモニタリングシートは、他のサービス担当者にはおそらく届いていないだろう。必要がない限り福祉用具専門相談員からお渡しすることもない。サービス担当者会議などの場面でしか他のサービス担当者との関わりがない。経験年数が長くなると介護支援専門員以外のサービス担当者と直接やりとりすることもできるが、経験年数が浅い場合には、他のサービス担当者との連絡の際には、必ず介護支援専門員を介する。介護支援専門員を介さないやりとりがしやすくなると、連携も取りやすくなるのではないか。 • 福祉用具専門相談員から他のサービス担当者への情報提供が必須になるのは避けたいが、容易に情報共有ができる手段が確立されるとよいと考える。
その他	<ul style="list-style-type: none"> • 次の報酬改定では福祉用具が介護保険適用除外となるといった話もあり、そのような逆境に立ち向かうために、福祉用具専門相談員の専門性を明示できるような改編案を作成いただいたと認識している。一方

で、福祉用具専門相談員の専門性を明示しようとするほど、現場の負担が大きくなってしまふ。福祉用具専門相談員の仕事が世間の人々に認知され、人々の役に立ち、福祉用具専門相談員にとっても生計を立てられるという状況が最も望ましいと考える。協力できることがあればしていきたい。

- 理想と現実をどうつないでいくのかが重要である。基本的な情報を訪問して聞き取るのではなく、他職種で共有できる仕組みやシステムができればよいと思った。

③ ヒアリング調査結果のまとめ

ヒアリング調査においては、各様式について、項目や選択肢等が設けられたことにより、確認するための意識づけとなった、記載しやすくなった等の肯定的な意見も寄せられたところではあるが、ここでは、更なる様式の見直しのために、特に重要と考えられる具体的な問題点や改善案等についてまとめる。

基本情報については、疾病の慢性進行性、急性進行性のチェック欄について、福祉用具専門相談員が独自に判断することは難しいといった意見が複数寄せられた。また、「介護環境」について、主介護者やその連絡先を明確にしておくことで、円滑に連絡をとれるといった意見もあった。「活動・参加」については、外出、社会交流、社会参加それぞれの定義がわかりづらいという声や、福祉用具の選定との関係性がわからない、利用者のプライベートに踏み込みすぎる可能性があるため聞きづらいといった声が挙げられた。さらに、「日常生活におけるリスク」については、福祉用具の利用に限定した事故、ヒヤリ・ハットのほうが把握しやすいといった声のほか、過去の期間が設定されていたほうがよいといった声もあった。

利用計画については、「最も重視する目的」を一つのみ選択することが難しいという意見が多数寄せられた。また、福祉用具利用目標で明記すべき項目とした項目のうち、期間については、利用者の状態や使用する福祉用具によっては記載しづらい、ケアプランと連動した期間とすべき、などの意見があった。そのほか、福祉用具利用目標で明記すべき項目を指定するのであれば、選定理由でも同様に指定するとよいのではないかと聞いた声もあった。

ふくせんモニタリングシートについては、「利用状況の変化」の記入方法がわかりづらいといった意見があったほか、「福祉用具のモニタリング時のADL・前回モニタリングからの変化の有無」を全項目確認することに対して、福祉用具専門相談員、利用者双方の負担を懸念する声が多数寄せられ、必要な項目や変化のあった項目のみ記載すればよいのではないかと聞いた意見もあった。

今回新たに作成したふくせん計画プロセスシートについては、社内での情報共有や、経験の浅い福祉用具専門相談員への意識づけなどに有用であるといった意見が寄

せられた一方で、業務負担との兼ね合いから必要性を疑問視する声もあった。特に住環境の家屋見取図については、作成にあたっての負担も大きく、また使用する福祉用具に関連しない場所を確認することへのハードルの高さを懸念する声が挙がっていた。

そのほか、改編案を活用していくにあたり必要な取組として、各項目の目的や確認すべき点等の周知や、より業務負担を軽減するための工夫等を求める意見があった。多職種連携に向けた課題としては、介護支援専門員、福祉用具専門相談員ともに、他職種との情報共有がより容易に行える手段の確立や、福祉用具専門相談員の提案力、対応力等の向上を期待する声があった。

(4) 改編様式の作成

試行運用の結果も踏まえ、福祉用具貸与サービスの質の向上に向けた記録項目や記載内容の基準の可視化・標準化に資する改編様式を作成し、既存ふくせん様式からの改編のポイントを整理した。(5-2. 改編様式、5-3. ふくせん福祉用具サービス計画書等改編のポイント、参照)

また、情報の確認や記載にあたり迷う項目等もあったことから、記載例やガイドラインの作成、研修の実施等、今後の課題と認識し、「4. 本事業のまとめと今後の課題」として取りまとめた。